

工事番号												(様式-1)			
工 事 名		令和7年度 田淵行男記念館 外壁・屋根等改修工事										金抜き設計書			
施 工 箇 所		安曇野市 田淵行男記念館													
設 計 大 要								施 工 方 法				請 負			
■田淵行男記念館の外壁・屋根等改修工事一式 ・田淵行男記念館 外部 屋根塗装工事一式 外壁塗装工事一式 外壁ひび割れ補修工事一式 内部 内部塗装工事一式 全館照明器具LED化工事一式 ・外トイレ 屋根塗装工事一式 外壁塗装工事一式 全館照明器具LED化工事一式 ほか								施 工 期 間				日間			
								契約年月日				令和 年 月 日			
								竣工予定年月日				令和 8 年 1 月 29 日			
								契約保証方法				金銭的保証			
								・別途指定する建設機械については排出ガス対策型の使用を原則とする。 ・この設計書で施工機械・仮設材の規格、調査条件等の記載及び「人、h、ℓ、%、日、時、工数、空m3、掛m2、日・回、日回、供用日、月」の単位により見積りのための参考数量を示したものは任意扱いです。したがって、内訳書の作成や契約を拘束するものではありません。ただし、指定した場合は除きます。							

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
令和7年度 田淵行男記念館 屋根・外壁等改修工事							
I	共通仮設工事	率共通費+積上共通仮設分	1.0	式			
II	直接工事費		1.0	式			
	純工事費 計						
IV	現場管理費		1.0	式			
	工事原価 計						
V	一般管理費		1.0	式			
	工事価格 計						
	消 費 税		1.0	式			
	工事費 合計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
I	共通仮設工事						
I-1	(率仮設分)						
	仮設建物	現場事務所	┌				
	仮設建物	管理事務所	├				
	仮設建物	現場トイレユニット	├				
	工事用用水電力		├				
	機械器具損料		└ 1.0	式			
	安全管理費		├				
	各種試験費		├				
	工事管理写真費		├				
	整理清掃	全般的な物	└				
	I-1 (率仮設分) - 計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
I-2	共通仮設費（積上計上）						
	交通誘導警備員(B)		45.0	人工			
	化学物質濃度測定	ハッシュ法 測定物質：ホルムアルデヒド トルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレン 1箇所×前後2	2.0	回			
	I-2（積上設分） - 計						
	I - 合計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
Ⅱ	直接工事費						
A	建築改修工事		1.0	式			
B	電気設備改修工事		1.0	式			
	Ⅱ - 合計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
A	建築改修工事						
1)	直接仮設工事		1.0	式			
2)	塗装工事		1.0	式			
3)	屋根板金工事		1.0	式			
4)	左官工事		1.0	式			
5)	木工事		1.0	式			
6)	ガラス工事		1.0	式			
7)	サイン工事		1.0	式			
	A - 合 計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
1)	直接仮設工事						
a	直接仮設工事(本館棟)		1.0	式			
b	直接仮設工事(便所棟)		1.0	式			
	1) - 計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
a	直接仮設工事(本館棟)						
	足場	くさび緊結式足場(手摺内外2本) w1200 掛払・損料・修繕・運搬共 存置1.5ヶ月間程度	522.0	m2			
	仮囲い	メッシュシート張り 掛払・損料・修繕・運搬共 存置1.5ヶ月間程度	522.0	m2			
	昇降階段	掛払・損料・修繕・運搬共 存置1.5ヶ月間程度	6.0	基			
	資材小運搬費		1.0	式			
	立地不良		1.0	式			
	法定福利費		1.0	式			
	1)-a 小計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
b	直接仮設工事(便所棟)						
	足場	くさび緊結式足場(手摺内外2本) w600 掛払・損料・修繕・運搬共 存置1.5ヶ月間程度	130.0	m2			
	仮囲い	メッシュシート張り 掛払・損料・修繕・運搬共 存置1.5ヶ月間程度	130.0	m2			
	昇降階段	掛払・損料・修繕・運搬共 存置1.5ヶ月間程度	2.0	基			
	特殊足場手間		130.0	m2			
	法定福利費		1.0	式			
	枝切り 撤去	2000×2000×h1000 程度	1.0	ヶ所			
	枝切り 解体廃材積込み	樹木	2.0	t			
	枝切り 解体廃材運搬	樹木	2.0	t			
	枝切り 解体廃材処分	樹木 枝・幹	2.0	t			
	1)-b 小計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
2)	塗装工事						
a	塗装工事(本館棟)		1.0	式			
b	塗装工事(便所棟)		1.0	式			
	2) - 計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
a	塗装工事(本館棟)						
①	外部塗装工事		1.0	式			
②	内部塗装工事		1.0	式			
	2)-a 小計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
①	外部塗装工事						
	屋根 高圧水洗浄		310.0	m2			
	屋根 塗装	下地調整 +2液型錆止め +フッ素樹脂トップコート	310.0	m2			
	屋根 雪止めアングル	下地調整 +2液型錆止め +フッ素樹脂トップコート	41.0	m			
	外壁 高圧水洗浄		300.0	m2			
	外壁 木面 塗装	下地調整 +木材保護塗料A	148.0	m2			
	外壁 吹付面 塗装	下地調整 +改修塗材E +シリコン樹脂トップコート	45.0	m2			
	外壁・軒天 打放し面 塗装	下地調整	107.0	m2			
	外壁・軒天 打放し面 塗装	撥水材塗布	107.0	m2			
	基礎巾木 高圧水洗浄		19.8	m2			
	破風・鼻隠し 塗装	下地調整 +木材保護塗料A	93.3	m			
	軒裏 塗装	下地調整 +木材保護塗料A	83.7	m2			
	付け梁・柱・土台 塗装	下地調整 +木材保護塗料A	250.0	m			
	梁・柱 塗装	下地調整 +木材保護塗料A	8.8	m			

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
	木製ドア 塗装 1600×2000 外面のみ	下地調整 +木材保護塗料A	4.3	m2			
	木製サッシ 塗装 1000×1000 外面のみ	下地調整 +木材保護塗料A	0.8	m2			
	水切り 塗装	下地調整 +2液型錆止め +フッ素樹脂トップコート	39.5	m			
	外部シーリング工事 RC壁面 横目地	W=35 撤去・打替	65.5	m			
	外部シーリング工事 サッシ・ドア開口廻りシール	W=20 撤去・打替	141.0	m			
	外部シーリング工事 バントキャップ 廻りシール	撤去・打替	3.5	m			
	外部シーリング工事 解体廃材運搬	廃プラスチック・クロス屑	0.036	t			
	外部シーリング工事 解体廃材処分	廃プラスチック・クロス屑	0.036	t			
	外壁ひび割れ補修 事前調査費用		152.0	m2			
	外壁ひび割れ補修 0.2～1mm	低圧注入樹脂工法	30.3	m			
	外壁ひび割れ補修 0.2mm未満	可とう性注入樹脂工法	30.3	m			
	① 小計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
②	内部塗装工事						
	天井 岩綿吸音板面	下地調整 +EP 養生費共	62.8	m2			
	天井(軒天) ケイカル面	下地調整 +OP 養生費共	6.0	m2			
	誘導灯受座 杉接ぎ板 700×300	OSCL	1.2	m2			
	スポット照明受座 120Φ t15	OSCL	0.1	m2			
	本館棟 配線穴補修	ボンドコーク 20Φ	20.0	ヶ所			
	② 小計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
b	塗装工事(便所棟)						
①	外部塗装工事		1.0	式			
②	内部塗装工事		1.0	式			
	2)-b 小計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
①	外部塗装工事						
	屋根 高圧水洗浄		49.8	m2			
	屋根 塗装	下地調整 +2液型錆止め +フッ素樹脂トップコート	49.8	m2			
	屋根 雪止めアングル	下地調整 +2液型錆止め +フッ素樹脂トップコート	4.6	m			
	外壁 高圧水洗浄		27.4	m2			
	外壁 板張り面 塗装	下地調整 +木材保護塗料A	27.4	m2			
	破風・鼻隠し 塗装	下地調整 +木材保護塗料B	24.6	m			
	軒裏 塗装	下地調整 +OP	18.5	m2			
	付け柱・土台 塗装	下地調整 +木材保護塗料B	20.3	m			
	丸柱 塗装	下地調整 +木材保護塗料B	16.3	m			

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
	サッシ枠 塗装	下地調整 +木材保護塗料B	48.5	m			
	サッシ框枠 塗装	下地調整 +木材保護塗料B	7.5	m			
	木製扉 塗装 外部面のみ	下地調整 +木材保護塗料B	6.8	m2			
	水切り 塗装	下地調整 +2液型錆止め +フッ素樹脂トップコート	17.0	m			
	FIX改造窓 方立・杉板面 W60 D120 H240	下地調整 +木材保護塗料B	1.0	m2			
	外部シーリング工事 FIX窓廻りシール	撤去・打替	38.1	m			
	外部シーリング工事 解体廃材運搬	廃プラスチック・クロス屑	0.005	t			
	外部シーリング工事 解体廃材処分	廃プラスチック・クロス屑	0.005	t			
	① 小計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
②	内部塗装工事						
	天井 岩綿吸音板面	下地調整 +EP 養生費共	22.5	m2			
	ダウンライト照明受座 225Φ t15	OSCL	0.1	m2			
	② 小計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
3)	屋根板金工事						
	本館棟 既存雨樋 撤去		25.4	m			
	本館棟 既存豎樋 撤去		8.4	m			
	本館棟 新規軒樋 取付	ガルバリウム鋼板 t=0.35 半丸120Φ	25.4	m			
	本館棟 新規豎樋 取付	ガルバリウム鋼板 t=0.35 丸75Φ	8.4	m			
	本館棟 落し口	120Φ/75Φ	2.0	個			
	本館棟 エルボ	丸75Φ	6.0	個			
	便所棟 軒先破損部修理		1.0	ヶ所			
	便所棟 雪止めアングルカット		2.0	ヶ所			
	便所棟 既存軒樋・集水器・鎖樋 撤去		1.0	式			
	便所棟 軒樋 取付	ガルバリウム鋼板 t=0.35 半丸120Φ	8.7	m			
	便所棟 集水器・鎖樋 取付		1.0	個			
	産廃処分費	運搬費・積込費 含	1.0	式			
	法定福利費		1.0	式			
	3) - 計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
4)	左官工事						
	本館棟 基礎巾木 補修 下地調整	外清掃、接着剤塗布、樹脂珪藻土薄塗り	30.0	m			
	法定福利費		1.0	式			
	4) - 計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
5)	木工事						
	本館棟 誘導灯受座	杉接ぎ板 700×300 t=20	5.0	ヶ所			
	本館棟 スポット照明受座	杉 120Φ t=15	2.0	ヶ所			
	便所棟 ダウンライト照明受座	杉 225Φ t=15	2.0	ヶ所			
	便所棟 FIX窓改造	方立w60d115h240 杉板張り両面 t=24 + 木下地30x67	3.0	ヶ所			
	5) - 計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
6)	ガラス工事						
	便所棟 ガラス取替工事 透明700tガラス	t= 3 1100×240	2.0	枚			
	便所棟 ガラス取替工事 透明700tガラス	t= 3 400×240	2.0	枚			
	副資材 コーキング		8.0	m			
	硝子撤去費	法定福利費含む	1.0	式			
	硝子入替施工費	法定福利費含む	1.0	式			
	残材処理費		0.7	m2			
	運搬諸経費		1.0	式			
	6) - 計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
7)	サイン工事						
	便所棟ピクトサイン	200角R15 表示板:SUS HL t=0.5 表示方法:シルク印刷 裏板:アクリル t=5	3.0	枚			
	取付施工費・諸経費		1.0	式			
	法定福利費		1.0	式			
	7) - 計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
B	電気設備改修工事						
1)	電灯・換気設備改修工事	便所等換気設備新設を含む	1.0	式			
2)	非常用照明・誘導灯設備改修工事		1.0	式			
3)	撤去・発生材処分		1.0	式			
	B - 合 計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
1)	電灯・換気設備改修工事	便所等換気設備新を設含む					
	電線管	HIVE16 (隠ぺい)	1.0	m			
	//	HIVE16 (露出)	4.0	m			
	//	HIVE36 (露出)	5.0	m			
	金属可とう電線管	ビニル被覆 38	1.0	m			
	エントランスキャップ	HIVE36	1.0	個			
	アウトレットボックス	VE 102×44 中型四角 加`-付き	4.0	個			
	ジョイントボックス	VE スイッチボックス1個用 加`-付き	3.0	個			
	電線・ケーブル	EM-IE3.5°	8.0	m			
	//	EM-EEF1.6-2C(天井内)	18.0	m			
	//	EM-EEF1.6-2C(木露出)	11.0	m			
	//	EM-EEF1.6-2C(器具渡り)	3.0	m			
	//	EM-EEF1.6-3C(天井内)	27.0	m			
	//	VVF1.6-2C (管内) 再利用	2.0	m			

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
	電線・ケーブル	EM-CE2sq-3C (管内)	6.0	m			
	//	EM-CE3.5sq-2C (管内)	6.0	m			
	//	VCT2sq-3C (床上)	7.0	m			
	//	DV3R2.0 (労) 電工	2.0	径間			
	//	DV3R2.0 (労) 普通作業員	2.0	径間			
	//	DV3R2.0 (材)	39.0	m			
	ライティングダクト 本体	125V2P15A 1m	8.0	本			
	//	125V2P15A 2m	15.0	本			
	//	125V2P15A 3m	6.0	本			
	//	125V2P15AE フィットインキャップ	19.0	個			
	//	2P12515A ジョイント	7.0	個			
	//	2P12515AE ジョイントL	2.0	個			
	//	イント	19.0	個			

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
	照明器具	A	2.0	台			
	//	A1	2.0	台			
	//	B0	3.0	台			
	//	CL	1.0	台			
	//	CS1	7.0	台			
	// 渡りコード	CS1 L300	7.0	本			
	// 渡りコード	CS1 L500	21.0	本			
	//	DC	5.0	台			
	//	DC1	1.0	台			
	//	DC3	5.0	台			
	//	DC4	1.0	台			
	//	DW	2.0	台			
	//	K	15.0	台			
	//	K1	5.0	台			

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
	照明器具	K2	3.0	台			
	//	P	6.0	台			
	//	R	1.0	台			
	//	M	1.0	台			
	//	S	4.0	台			
	//	ST	1.0	台			
	//	SP	3.0	台			
	//	SP1	17.0	台			
	//	SP3	2.0	台			
	//	SP4	66.0	台			
	// LED電球	RK	2.0	個			
	// LED電球	RK2	3.0	個			
	// 調光器	RC	6.0	台			
	// 調光器	RC2	6.0	台			

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
	フラッシュプレート	710 金属製II型 角2連	5.0	枚			
	//	710 金属製II型 角3連	1.0	枚			
	カバープレート	金属製 角1連	7.0	枚			
	ブランクチップ	1個用	1.0	個			
	ブランクカバー	710 スイッチ用1連	1.0	個			
	コンセントキャップ	125V2P15AE	7.0	個			
	熱線センサー	屋外 軒下用 親器 100V	2.0	台			
	//	天井付 親器 3A 100V	3.0	台			
	//	天井付 子器 換気扇連動	3.0	台			
	パイプスリーブ	φ100 VU L=0.115m程度	3.0	個			
	パイプスリーブ	φ150 VU L=0.115m程度	3.0	個			

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
	パイプファン	0A-1	3.0	台			
	丸型フード	0A-1用 指定色塗装	3.0	台			
	自然給気ユニット	VF-1	3.0	台			
	バンドキャップ	VF-1用 指定色塗装	3.0	台			
	壁面開口	φ100	3.0	個所			
	壁面開口	φ150	3.0	個所			
	自動点滅器盤	指定色塗装	1.0	面			
	打込み式接地極	φ10 L1000 リード端子付き	1.0	本			
	接地極埋設標	黄銅製	1.0	個			
	架空線支持材	低圧ラック、DV碍子	4.0	組			
	木削孔	φ15以下200mm程度	12.0	個所			
	高所作業車賃貸料	トラック架装 作業床高8~10m	1.0	日			
	1) - 計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
	非常用照明・誘導灯設備改修工事						
	誘導灯	C1	4.0	台			
	//	BL1	1.0	台			
	非常用照明	103b	3.0	台			
	//	153c 既存開口部使用	2.0	台			
		(断熱材除け含む)					
	//	156 既存開口部使用	4.0	台			
	消防手続費	誘導灯	1.0	式			
	2) - 計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
3)	撤去・発生材処分						
	撤去費						
	電線・ケーブル	再利用する VVF1.6-2C（管内）	2.0	m			
	電線管	再利用しない HIVE16	10.0	m			
	露出ボックス	再利用しない VE16 1方出	1.0	個			
	電線・ケーブル	再利用しない VVF1.6-2C（天井内）	44.0	m			
	//	再利用しない VVF1.6-2C（管内）	8.0	m			
	//	再利用しない VVF1.6-2C（木露出）	4.0	m			
	//	再利用しない DV2.0（19m×2）電工	2.0	径間			
	//	再利用しない DV2.0（19m×2）普通作業員	2.0	径間			
	コード	再利用しない VCTF1.25-2C相当（吊り）	3.0	m			
	//	再利用しない VCTF1.25-2C相当	23.0	m			
	//	再利用しない VCTFK1.25-2C相当（木露出）	12.0	m			

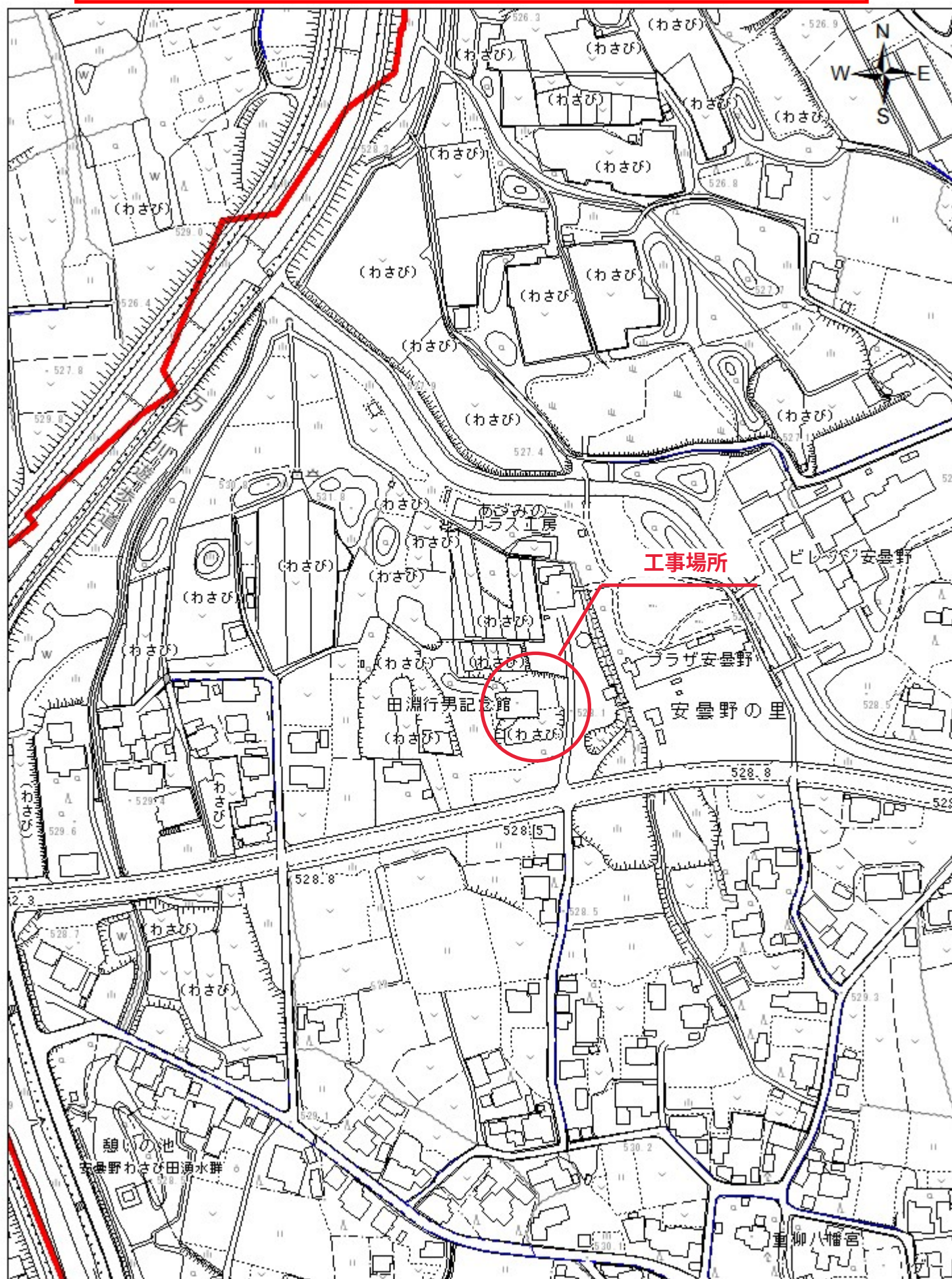
No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
	ライティングダクト 本体	再利用しない 125V2P15A	21.0	m			
	//	再利用しない 125V2P15AE フィード インキャップ	7.0	個			
	//	再利用しない 2P12515A ジョイント	7.0	個			
	//	再利用しない 2P12515AE ジョイントL	5.0	個			
	照明器具	再利用しない FSS-321	2.0	台			
	//	再利用しない FSS-322	2.0	台			
	//	再利用しない 防犯灯 20W×1	3.0	台			
	//	再利用しない 什器照明 64W×1	7.0	台			
	//	再利用しない 什器照明 安定器	7.0	台			
	//	再利用しない 直付 小型シーリングライト 60W	9.0	台			
	//	再利用しない 直付 電球ソケット 60W相当	9.0	台			

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
	照明器具	再利用しない ダウライト φ175 60W相当	2.0	台			
	//	再利用しない 直付間接照明20W相当×1（別置安定器共）	2.0	台			
	//	再利用しない 直付間接照明40W相当×1（別置安定器共）	25.0	台			
	//	再利用しない コードペンダント 60W	1.0	台			
	//	再利用しない コードペンダント φ250 60W	6.0	台			
	//	再利用しない FSS6-322	1.0	台			
	//	再利用しない キッチンライト 15W	1.0	台			
	//	再利用しない ブラケットスポットライト	6.0	台			
	//	再利用しない ブラケットスポットライト WP	4.0	台			
	//	再利用しない ライティングダクト外照明（電球タイプ）	63.0	台			
	電球	再利用しない 電球 60W	2.0	個			
	//	再利用しない 電球 40W	3.0	個			
	調光器	再利用しない 白熱灯用	3.0	台			
	//	再利用しない 位相制御	4.0	台			

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
	埋込スイッチ	再利用しない 1P15A×1	2.0	個			
	//	再利用しない 1P15A×2	2.0	個			
	//	再利用しない 1P15A×4	1.0	個			
	防水埋込スイッチ	再利用しない 1P15A×1	1.0	個			
	カバープレート	再利用しない 金属製 2連	2.0	枚			
	誘導灯	再利用しない 壁付 中型 20W×1	5.0	台			
	非常用照明	再利用しない K1-ISS4-JE13	3.0	台			
	//	再利用しない K1-IRS4-JE13	3.0	台			
	//	再利用しない K1-IRS4-JE30	3.0	台			
	高所作業車賃貸料	トラック架装 作業床高8~10m	1.0	日			
	3)-a 小計						

No	名 称	規格・摘要	原設計 数量	単位	単価	原設計金額	備 考
	発生材処分						
	解体廃材積込	廃プラスチック	0.01	t			
	解体廃材積込	混合物屑	0.19	t			
	解体廃材積込	金属千地屑（電線・ケーブル）	0.02	t			
	解体廃材積込	ガラス屑（蛍光管、電球）	0.02	t			
	解体廃材運搬	廃プラスチック DT2t・4t積 片道30km程度	0.01	t			
	解体廃材運搬	混合物屑 DT2t・4t積 片道30km程度	0.19	t			
	解体廃材運搬	金属千地屑（電線・ケーブル） DT10t積 片道10km程度	0.02	t			
	解体廃材運搬	ガラス屑（蛍光管、電球） DT2t・4t積 片道30km程度	0.02	t			
	解体廃材処分	廃プラスチック（ケーブル被覆含む）	0.01	t			
	解体廃材処分	混合物屑	0.19	t			
	解体廃材処分（有価物処分）	金属千地屑（銅）	0.01	t			
	解体廃材処分	ガラス屑（電球）	0.01	t			
	解体廃材処分	蛍光管	10.20	kg			
	3)-b 小計						
	3) - 計						

令和7年度 田淵行男記念館 屋根・外壁等改修工事



1:2,500

0 45 90 180 m

現 場 説 明 書

安曇野市 総務部 財産管理課 施設経営担当

1. 件名（工事名称）

令和7年度 田淵行男記念館外壁・屋根等改修工事

2. 工事場所： 安曇野市 田淵行男記念館

2. 工事概要： 田淵行男記念館の外壁・屋根等改修工事一式

■田淵行男記念館

外部

屋根塗装工事一式

外壁塗装工事一式

外壁ひび割れ補修工事一式

内部

内部塗装工事一式

全館照明器具 LED 化工事一式

■外トイレ

屋根塗装工事一式

外壁塗装工事一式

全館照明器具 LED 化工事一式

4. 工期 契約日 から 令和8年1月29日まで

5. 一般事項について

(1)現場説明会

本件の内容は、現場、入札心得、入札公告、特記仕様書、設計図書、安曇野市建築工事の手引等関連する仕様書類、長野県建設工事標準請負契約約款に基づき市が定める契約書（案）及び現場説明書（以下「設計図書等」という。）によるものとし、現場説明会は実施しない。

(2)設計図書等に対する質問及び回答について

設計図書等に関する問い合わせは、「入札公告」記載のとおりとし、入札執行が完了するまでの間、本件に関しての面談又は電話（ただし、指定の問い合わせ先は除く。）等は一切認めない。

(3)工事費内訳書の提出

入札時の工事費内訳書提出については「入札公告」による。

(4)工事費内訳書記載数量は参考数量とする。

6. 本工事における特記事項

(1) 工事用地等

本工事に必要な用地は、以下のとおり。

使用目的	使用場所・面積
資材置場	敷地内
駐車場	同上敷地
現場事務所	同上敷地

(2) 排水への対応

本工事施工に伴う排水は、沈殿処理・Ph 管理等の各法令を守り、自然環境等へ悪影響を及ぼすことのないよう適正に処理し、特に指示のある場合を除き近傍の公共用水域又は排水路等に排水する。また、排水路等は、常に適切な維持管理を行い、従前の機能を損なわないようにすること。ただし、周辺水路についての排水は、管理者と協議のうえ、同意を得ること。

(3) 工事着手前に事前のお知らせをおこなうこと。また看板等を設置して、工事内容の周知を行うこと。

(4) 夜間、早朝及び休日での施工を実施する場合は監理者・監督員と打合せを行い、監理者・監督員の承諾を得たのちに、必要な場合は近隣への事前通達のうえ施工すること。

(5) 施設利用者及び周辺住民の安全に十分配慮すること。

(6) 感染症対策は十分に講じること。

(7) 各官公庁手続きについて、

事前に監督員・監理者が申請書類等の内容確認をしてから提出すること。

(8) 記念館の内部改修及び照明器具 LED 化工事については、**休館日及び令和 7 年 11 月 25 日から令和 7 年 12 月 8 日までの休館期間中に施工を実施し、完了すること。**

また、引き渡し検査についても 12 月 8 日までに受けること。

(9) 本工事は執務並行型の工事である。

(10) 本工事は、「週休 2 日工事実施要領」発注者指定型週休 2 日工事の対象である。

なお、週休 2 日の取組実績に応じて、単価の補正を行い、設計変更を行うものとする。

(工事発注時は 4 週 8 休（通期）を想定した設計単価で積算している)

(11) 近隣にワサビ畑、養魚場があるため、施工方法については、事前に監督員・監理者の承諾を得ること。

7. 本工事に関連する別途発注工事の予定

発注機関	工事名	工期	工事内容	備考

・本工事に近接・競合する工事の予定

発注機関				

・改修工事における工事個所の順番は図のとおり。

8. 安全対策関係

① 交通誘導警備員

受注者が交通誘導業務を他人に委託する場合は、受託者は警備業法第4条の規定により公安委員会から警備業の認定を受けた者であること。

② 安全施設

発注者が想定している仮設（ゲート、仮囲い等）については、仮設計画図に示したとおり。受注者は明示された条件に基づき、自主的に工法を選定し、構造設計等必要な検討を行い施工するものとする。（任意仮設）

なお、明示した条件と現場が一致しない場合や明示されていない条件について予期することができない特別な状態が生じた場合において、必要と認められるときは設計変更の対象とする。

9. 工事用道路関係

現場への工事関係車両の入退場の路線は事前に監督員と協議をすること。

10. その他

火災保険等への加入期間は、請負契約後から契約工期末日後14日までとする。

特記仕様書（共通事項）

総務部 財産管理課

1. 保険等

建物（施設）引渡しまで工事受注者は、現場説明事項・施工条件明示事項に定める保険に加入しなければならない。加入期間は原則として工事着手日とし、その終期は工事しゅん工後14日以降とする。

2. 各種調査等に対する協力について

本工事について、発注者が自ら又は、発注者が指定する第三者が行う下記調査等に対して、協力しなければならない。

(1) 公共事業労務費調査等

(2) 資材調査、建設副産物実態調査等

3. 工事検査

施工途中において総務部契約検査課職員または、発注機関の長の指定する職員による抜打ち検査を実施することがあるので、検査に協力すること。

4. 被害届等

暴力団関係者から工事妨害による被害を受けた場合は、被害届を速やかに警察に提出すること。

5. 工事实績情報サービス（CORINS）の登録について

(1) 請負金額が500万円以上（税込）の工事については、工事实績情報サービス（CORINS）の登録をすること。

(2) 登録する場合は、「登録のために確認のお願い」を作成し、監督員の確認を受け、次に示す期間内に（一財）日本建設情報総合センター（JACIC）に登録の手続きを行うこと。また、登録機関発行の「登録内容確認書」が届いた場合は、速やかに監督員に提示すること。なお、変更時と完成時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提出を省略できるものとする。

① 工事受注時契約締結後10日以内

② 登録内容の変更時変更契約締結後10日以内

③ 工事完成時工事完成後10日以内

6. 施工体制台帳に係る書類について

(1) 工事受注者は、請負契約した全ての下請業者について、建設業法に定める「施工体制台帳」とそれに係る書類及び「施工体系図」を作成し、工事期間中工事現場に備え付けるとともに、その写しを監督員に提出すること。

(2) 「施工体系図」は工事関係者及び公衆の見やすい場所に掲示を行うこと。

(3) 次の業種についても請負契約に該当するため、(1)と同様とする。

- ・ 1日で完了する請負契約、少額な作業・雑工の請負契約
- ・ クレーン作業、コンクリートポンプ打設等の日々の単価契約で行っている場合
- ・ クレーン等の業種オペレーターを機械と一緒にリース会社から借上げる場合

7. 主任技術者及び監理技術者の専任について

主任技術者又は監理技術者（以下「監理技術者等」という。）が専任を求められる工事である場合、監理技術者等を専任で設置すべき期間は契約工期が基本となるが、次の期間については、専任を要しない。なお、具体的な期間については、監督員との打合せにおいて定めることとする。

- ① 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入、または仮設工事等が開始されるまでの期間）
- ② 自然災害の発生又は埋蔵文化財調査等により、工事を全面的に一時中止している期間
- ③ エレベーター等の工場製作を含む工事であって、工場製作のみが行われている期間
- ④ 工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）、事務手続、後片付け等のみが残っている期間

8. 産業廃棄物等の取扱い

- (1) 廃棄物の処理に当たっては、受注者が自ら処理（分別、保管、収集、運搬及び処分の一連の行為）をするときは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という。）に基づき、適正に行うこと。
- (2) 廃棄物の処理の全部又は一部を委託する場合は、廃棄物処理法に基づく処理を業として許可を取得している者に委託すること。また、施工前に産業廃棄物処理委託契約書の写し、産業廃棄物処理業の許可証の写し、許可運搬車両一覧並びに処分地の案内図等をまとめた「廃棄物処理計画書」を監督員に提出すること。
- (3) しゅん工した時は、廃棄物ごとに処理数量を集計し、積み込み状況の写真、処分状況の写真を添付した「廃棄物等処理報告書」を監督員に提出するとともに、マニフェストA票、B2票、D票並びにE票の原本（廃棄物の種類ごとに1セット）を提示すること。

9. 再生資源利用促進計画書等

「資源の有効な利用の促進に関する法律」（ラージリサイクル法）に基づき、受注者は、工事の着手前に「再生資源利用促進計画書」及び「再生資源利用計画書」を作成すること。

また、しゅん工後に「再生資源利用促進実施書」及び「再生資源利用実施書」を作成し、監督員に提出すること。

対象工事：ラージリサイクル法に規定する一定規模以上の工事

作成方法：COBRIS（建設副産物情報交換システム※）を利用すること。

※（一財）日本建設情報総合センター（JACIC）が提供する建設副産物の情報交換サービス

10. 安全対策関係

- (1) 工事現場においては、労働災害、公衆災害防止に努めるとともに、全作業員を対象に定期的に安全教育、研修及び訓練を行うこと。
- (2) 安全教育、研修及び訓練については、工事期間中に月一回以上実施し、この結果は工事日誌へ記録するほか工事写真等も整理のうえ提出すること。なお、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。
- (3) 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きや

すい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

11. 環境対策関係

- (1)現場で使用する機械は、低騒音型、低振動型、排出ガス対策型建設機械とすること。
- (2)夜間、早朝等の稼動を避けること。ただし、監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。なお、運搬ルートを選定に当たっては影響の少ないルートを選定すること。
- (3)汚水、汚濁、土砂の流失防止に努めること。また、表土復元等環境の回復に努めること。
- (4)熱帯材合板型枠は、極力使用しないこと。

12. 過積載の禁止

- (1)工事の施工計画にあたって、施工計画書に次の事項を具体的に記載するとともに、施工時においても遵守すること。

- ①積載重量制限を超過しての建設発生土の処理及び資機材（以下「資機材等」という。）の積載重量の厳重チェックを行うこと。
- ②過積載を行っている資材等納入業者からの資機材等購入は行わないこと。
- ③過積載を防止するため、資機材等の購入にあたっては、納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
- ④資機材等の運搬には、さし枠装着車、物品積載装置等の不正改造した車輛及び不表示車等を使用しないこと。また、同車輛からの資機材等の引き渡しを受けないこと。
- ⑤下請業者や資機材等納入業者を選定するにあたっては、交通安全に関する配慮に欠けた者または車輛を使用した業務等において悪質かつ重大な事故を発生させた者を排除すること。
- ⑥飛散の恐れがあるものについては、飛散しないような処置を行い運搬すること。
- ⑦土砂等の運搬に関する事業者の選定に当たっては、「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」の目的に鑑み、同法第12条の規定に基づき届け出た団体構成員の雇用に努めること。

- (2)以上の点について、下請業者についてもこれに準じ徹底すること。

~~13. セメント及びセメント系固化材を使用した改良土について~~

- ~~(1)セメント及びセメント系固化材を使用した地盤改良及び改良土を再利用する場合は、六価クロム溶出試験を行い、その結果について監督員に報告する。~~
- ~~(2)セメント及びセメント系固化材とは、セメントを含有成分とする固化材で、普通ポルトランドセメント、高炉セメント、セメント系固化材、石灰系固化材をいい、これに添加物を加えたものを含める。~~
- ~~(3)六価クロム溶出試験は「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）」（以下「実施要領（案）」という。）により実施し、土壤環境基準を超えないことを確認する。~~

14. アスベスト建材使用箇所等の事前調査

- (1)石綿等による健康障害を防止するため、とりこわし、改修工事の解体及び撤去等作業前、

図面・施工範囲目視、その他適切な方法によるアスベスト含有材料の有無について調査を行い、報告書を監督員に提出する。アスベスト含有材料が無かった場合においても書面にて報告を行う。

報告書の記載内容

- ① アスベスト材料の種別
- ② アスベスト形状、飛散可能性の有無
- ③ 製造所・製品名称、製造所の公表するアスベスト含有率

なお、上記調査において、アスベスト分析調査が必要な場合は別途監督職員と協議を行う。

- (2) 監督員の指示による「石綿（アスベスト）の事前調査結果」、「建築物等の解体・改修等作業に関するお知らせ」について、公衆の見やすい場所に掲示を行う。

15. 建設業退職金制度について

- (1) 工事受注者は、自ら雇用する建退共制度の対象労働者に係る共済証紙を購入し、当該労働者の共済手帳に共済証紙を貼付すること。
- (2) 工事受注者が下請契約を締結する際は、下請業者に対して、建退共制度の趣旨を説明し下請業者が雇用する建退共制度の対象労働者に係る共済証紙をあわせて購入し現物により交付すること、または建退共制度の掛金相当額を下請代金中に算入することにより、下請業者の建退共制度への加入並びに共済証紙の購入及び貼付を促進すべきこと。
- (3) 請負代金の額が800万円以上の建設工事の請負契約を締結した時は、工事受注者は建退共制度の発注者用掛金収納書（以下「収納書」という。）を工事締結後1ヶ月以内に発注者に提出すること。なお、工事契約締結当初は工場製作の段階であるため建退共制度の対象労働者を雇用しないこと等の理由により、期限内に当該工事に係る収納書を提出できない事情がある場合又は、建退共対象労働者を使用しない場合においては、あらかじめその理由を書面により申し出ること。

16. 資材の市内産優先使用及び市内企業の優先採用

- (1) 工事受注者は、本工事に使用する材料については、規格・品質等の条件を満足するものについては、市内産資材を優先使用するよう努めること。
- (2) 工事受注者は、工事用資材の調達に当たっては、極力市内の取扱い業者から購入すること。
- (3) 下請契約を締結する際には、市内企業の採用に努めること。

17. 再資源化及び再生資源等使用状況

工事受注者は、しゅん工時にコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、木くずの再資源化の状況、再生資源（再生クラッシャーラン、再生アスファルト・コンクリート、再生土砂）及び信州リサイクル製品の使用状況について、監督員へ報告すること。

18. レディーミクストコンクリート製造工場の選定について

受注者は、I類コンクリートの製造工場を、JISマーク表示認証工場（改正工業標準化法（平成16年6月9日公布）に基づき国に登録された民間の第三者機関（登録認証機関）により認証を受けた工場）で、かつ、コンクリート製造に係る指導及び品質管理を行う施工管理技術者（コ

ンクリート主任技士等）が置かれ、良好な品質管理が行われている工場（全国品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等）から選定する。

ただし、これにより難しい場合は、監督員と協議する。

19. 工事進捗状況報告書

監督員の指示により、毎月の工事の進捗状況を報告書にまとめて提出する。

添付書類

- ・工事記録（工事の経過に伴う主な工事内容等の事項を記載した月報）
- ・工事打合わせ記録簿（当月分）
- ・工事写真（工事の進捗状況がわかるものを数枚）

20. 施工図等の取扱い

施工図等の著作権に関わる当該建物に限る使用权は、発注者に移譲する。

21. 設計図CADデータについて

本工事の設計図CADデータを貸与する。貸与したCADデータは、本工事の履行に必要な施工図の作成及び完成図の作成においてのみ使用することとし、それ以外の目的で使用してはならない。

22. 完成写真の著作権の権利等について

工事受注者は、完成写真の撮影者との契約にあたって、以下の事項を条件とすること。

- ① 完成写真は、市が行う事務並びに市及び市が認めた公的機関の広報に、無償で使用する
ことができる。この場合において、著作者名を表示しないことができる。
- ② 以下に掲げる行為をしてはならない。ただし、あらかじめ発注者の承諾を得た場合は、
この限りではない。
 - イ. 完成写真を公表すること。
 - ロ. 完成写真を他人に閲覧させ、複写させ、又は譲渡すること。

23. 高度技術・創意工夫・社会性に関する実施状況の提出について

受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、又は、地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、施工に先立ち所定の様式により提出することができる。

高度技術・創意工夫・社会性等の具体的内容がある場合は、「別添様式」及び、「説明資料」を提出すること。なお、用紙サイズはA4版とする。

24. 工期又は請負代金の額に影響を及ぼす事象に関する情報の通知について

落札者（随意契約の場合にあっては、契約の相手方）は、建設業法（昭和24年法律第100号第20条の2第2項に基づき、工期又は請負代金の額に影響を及ぼす事象が発生するおそれがあると認めるときは、落札決定（随意契約の場合にあっては、契約の相手方の決定）から請負契約を締結するまでに、契約を担当する者に対して、その旨を当該事業の状況の把握のため必要な情報を合わせて通知すること。

令和7年2月12日適用版

④1 外壁改修工事 共通事項	・ポリマーセメントモルタル ポリマーセメントモルタルの種類 合成ゴム系、アクリル系、エチレンー酢ビ系等 <table><tr><th>曲げ強さ (N/mm2)</th><th>圧縮強さ (N/mm2)</th><th colspan="3">接着強さ (N/mm2)</th></tr><tr><th></th><th></th><th>標準時</th><th>湿潤時</th><th>低温時</th></tr><tr><td>6.0以上</td><td>20.0以上</td><td>1.0以上</td><td>0.8以上</td><td>0.5以上</td></tr></table> 表面状態 だれの下がり量は5mm以内とし、ひび割れが発生していないこと。 透水性 裏面の漏れ、水滴の付着がないこと。 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (4.2.2) ・ポリマーセメントスラリー 広がり速度 長さ変化率 引張接着性 曲げ性能 吸水性 耐久性 (cm/s) (収縮) (材齢28日) (72時間) (劣化曲げ強さ) 3以上 3%以下 0.5N/mm2以上 5.0N/mm2以上 15%以下 5.0N/mm2以上 保水係数 0.35～0.55 粘調係数 0.50～1.00 (4.2.2) ・吸水調整材 <table><tr><th>項目</th><th>全面形分(%)</th><th>吸水性(g)</th><th>接着強さ(N/mm2)</th><th>界面破断率(%)</th></tr><tr><td>品質・性能</td><td>表示値±1%以内</td><td>30分間で1g以下</td><td>0.98以上</td><td>50%以上</td></tr></table> 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。		曲げ強さ (N/mm2)	圧縮強さ (N/mm2)	接着強さ (N/mm2)					標準時	湿潤時	低温時	6.0以上	20.0以上	1.0以上	0.8以上	0.5以上	項目	全面形分(%)	吸水性(g)	接着強さ(N/mm2)	界面破断率(%)	品質・性能	表示値±1%以内	30分間で1g以下	0.98以上	50%以上	4. 浮き部改修工法																																																																																															
	曲げ強さ (N/mm2)	圧縮強さ (N/mm2)	接着強さ (N/mm2)																																																																																																																								
		標準時	湿潤時	低温時																																																																																																																							
6.0以上	20.0以上	1.0以上	0.8以上	0.5以上																																																																																																																							
項目	全面形分(%)	吸水性(g)	接着強さ(N/mm2)	界面破断率(%)																																																																																																																							
品質・性能	表示値±1%以内	30分間で1g以下	0.98以上	50%以上																																																																																																																							
④2 外壁改修工事 コンクリート打放仕上げ外壁	①ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法 (4.1.4)(4.3.4～4.3.6) <table><tr><th>注入工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (ml/m)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～1.0未満</td><td>※200～300</td><td>※</td><td></td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.3未満</td><td>※50～100</td><td>※40</td><td>・</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上～0.5未満</td><td>※100～200</td><td>※70</td><td>・</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.5以上～1.0未満</td><td>※150～250</td><td>※130</td><td>・</td></tr></table> 注入材料 ※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A6024低粘度形又は中粘度形) ・ 検査 (コア抜取り) ※行わない ・行う (抜取り部の補修方法:) (4.1.4)(4.2.2)(4.3.5) ・Uカットシール材充てん工法 <table><tr><th>充てん材料</th><th>品質・規格等</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・シーリング用材料</td><td>※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材</td><td>ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・行う</td></tr><tr><td>・可とう性エポキシ樹脂</td><td>・</td><td></td></tr></table> ○シール工法 <table><tr><th>シール材料</th><th>品質・規格等</th></tr><tr><td>・パテ状エポキシ樹脂</td><td></td></tr><tr><td>○可とう性エポキシ樹脂</td><td>ひび割れ幅0.2mm未満に適用</td></tr></table> 2. 欠損部改修工法 ※充てん工法 <table><tr><th>シール材料</th><th>品質・規格等</th></tr><tr><td>・エポキシ樹脂モルタル</td><td></td></tr><tr><td>・ポリマーセメントモルタル</td><td></td></tr></table>	注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	備 考	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※		・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40	・	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70	・	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	・	充てん材料	品質・規格等	備 考	・シーリング用材料	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・行う	・可とう性エポキシ樹脂	・		シール材料	品質・規格等	・パテ状エポキシ樹脂		○可とう性エポキシ樹脂	ひび割れ幅0.2mm未満に適用	シール材料	品質・規格等	・エポキシ樹脂モルタル		・ポリマーセメントモルタル		4-4 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁																																																																										
	注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	備 考																																																																																																																						
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※																																																																																																																								
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40	・																																																																																																																							
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70	・																																																																																																																							
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	・																																																																																																																							
充てん材料	品質・規格等	備 考																																																																																																																									
・シーリング用材料	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・行う																																																																																																																									
・可とう性エポキシ樹脂	・																																																																																																																										
シール材料	品質・規格等																																																																																																																										
・パテ状エポキシ樹脂																																																																																																																											
○可とう性エポキシ樹脂	ひび割れ幅0.2mm未満に適用																																																																																																																										
シール材料	品質・規格等																																																																																																																										
・エポキシ樹脂モルタル																																																																																																																											
・ポリマーセメントモルタル																																																																																																																											
4-3 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁	1. 既存モルタル塗りの撤去 2. ひび割れ部改修工法	・行う (※全面 ・図示の範囲) ・既存モルタル撤去工法 (範囲は図示 撤去部分の補修は、3. 欠損部改修工法による) ※樹脂注入工法 (※既存モルタル面 ・既存躯体コンクリート面) (4.1.4)(4.2.2)(4.4.5) <table><tr><th>注入工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (cc/m)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～1.0未満</td><td>※200～300</td><td>※</td><td></td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.3未満</td><td>※50～100</td><td>※40</td><td>・</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上～0.5未満</td><td>※100～200</td><td>※70</td><td>・</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.5以上～1.0未満</td><td>※150～250</td><td>※130</td><td>・</td></tr></table> 注入材料 ※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A6024低粘度形又は中粘度形) ・ 検査 (コア抜取り) ※行わない ・行う (抜取り部の補修方法:) (4.1.4)(4.2.2)(4.3.5) ・Uカットシール材充てん工法 <table><tr><th>充てん材料</th><th>品質・規格等</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・シーリング用材料</td><td>※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材</td><td>ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・行う</td></tr><tr><td>・可とう性エポキシ樹脂</td><td>・</td><td></td></tr></table> ・シール工法 (※既存モルタル面 ・既存躯体コンクリート面) (4.1.4)(4.2.2)(4.4.7) <table><tr><th>シール材料</th><th>品質・規格等</th></tr><tr><td>・パテ状エポキシ樹脂</td><td></td></tr><tr><td>・可とう性エポキシ樹脂</td><td></td></tr></table> ・既存塗り仕上げ材の撤去及び補修 (※シール工法の範囲 ・) (4.4.2)(4.6.3)	注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (cc/m)	備 考	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※		・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40	・	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70	・	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	・	充てん材料	品質・規格等	備 考	・シーリング用材料	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・行う	・可とう性エポキシ樹脂	・		シール材料	品質・規格等	・パテ状エポキシ樹脂		・可とう性エポキシ樹脂		4. 浮き部改修工法																																																																																
	注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (cc/m)	備 考																																																																																																																						
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※																																																																																																																								
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40	・																																																																																																																							
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70	・																																																																																																																							
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	・																																																																																																																							
充てん材料	品質・規格等	備 考																																																																																																																									
・シーリング用材料	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・行う																																																																																																																									
・可とう性エポキシ樹脂	・																																																																																																																										
シール材料	品質・規格等																																																																																																																										
・パテ状エポキシ樹脂																																																																																																																											
・可とう性エポキシ樹脂																																																																																																																											
3. 欠損部改修工法	既存モルタル面の欠損部 (4.1.4)(4.4.8)(4.4.9) <table><tr><th>改修工法の種類</th><th>材 料</th><th>品質・規格等</th></tr><tr><td>・充てん工法</td><td>ポリマーセメントモルタル</td><td></td></tr><tr><td>・モルタル塗替え工法</td><td>改修標準4.2.2(g)による</td><td>塗り厚25mmを越える場合の補強 ※行う ・行わない ・図示</td></tr></table> 既製目地材 ・適用する (形状 ※図示 ・) (4.2.2)	改修工法の種類	材 料	品質・規格等	・充てん工法	ポリマーセメントモルタル		・モルタル塗替え工法	改修標準4.2.2(g)による	塗り厚25mmを越える場合の補強 ※行う ・行わない ・図示	5. 陶磁器質タイル張り																																																																																																																
改修工法の種類	材 料	品質・規格等																																																																																																																									
・充てん工法	ポリマーセメントモルタル																																																																																																																										
・モルタル塗替え工法	改修標準4.2.2(g)による	塗り厚25mmを越える場合の補強 ※行う ・行わない ・図示																																																																																																																									
④5 外壁改修工事 塗り仕上げ外壁	①既存塗膜等の除去及び下地処理 ②下地調整材 ③仕上げ塗材仕上げ	・外壁タイル張り全面 ・図示の範囲 撤去範囲 ※下地モルタルまで ・張付けモルタルまで ・タイルのみ 改修箇所 ※既存タイル張り面 ・既存タイル撤去面 (・コンクリート面 ・モルタル面) ※樹脂注入工法 (4.1.4)(4.3.4)(4.5.5) <table><tr><th>注入工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (cc/m)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～1.0未満</td><td>※200～300</td><td>※</td><td></td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.3未満</td><td>※50～100</td><td>※40</td><td>・</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上～0.5未満</td><td>※100～200</td><td>※70</td><td>・</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.5以上～1.0未満</td><td>※150～250</td><td>※130</td><td>・</td></tr></table> 注入材料 ※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A 6024低粘度形又は中粘度形) 検査 (コア抜取り) ※行わない ・行う (抜取り部の補修方法:) (4.3.4) (4.1.4)(4.2.2)(4.3.5)(4.3.6) ・Uカットシール材充てん工法 (既存タイル張り撤去面) <table><tr><th>充てん材料</th><th>品質・規格等</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・シーリング用材料</td><td>※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材</td><td>ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・行う</td></tr><tr><td>・可とう性エポキシ樹脂</td><td>・</td><td></td></tr></table> ・タイル部分張替え工法 (4.1.4)(4.2.2)(4.4.5)(4.5.7) <table><tr><th>接着剤の種類</th><th>品質・規格等</th></tr><tr><td>※ポリマーセメントモルタル ・変成シリコン樹脂 ・エポキシ樹脂 ・ポリウレタン樹脂 ・シリコン樹脂 ・タイル部分張替え工法用接着剤</td><td>「建設省官民連携共同研究所報告書『有機系接着剤を利用した外装タイル・石張りシステムの開発』(建設大臣官庁技術調査室監修平成9年2月)」における「外装タイル・石張り用接着剤の品質基準 (案)」に基づく品質性能試験に適合するタイプ1 であって監督職員の承認するもの又は特記による。</td></tr></table> ・タイル張替え工法 (4.1.4)(4.5.8) 伸縮目地調整及びひび割れ誘発目地位置 ※改修標準表4.5.1による ・図示 (4.5.8)(表4.5.1) 4. 浮き部改修工法 (4.1.4)(4.5.10～4.5.15)(表4.4.3)(表4.4.4) <table><tr><th rowspan="2">改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)</th><th colspan="2">フカビの本数(本/㎡)</th><th colspan="2">注入口の箇所数(箇所/㎡)</th><th rowspan="2">注入量</th></tr><tr><th>一般部</th><th>指定部</th><th>一般部</th><th>指定部</th></tr><tr><td>・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td><td>※16</td><td>※25</td><td></td><td></td><td>※25ml</td></tr><tr><td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※13</td><td>※20</td><td>※12</td><td>※20</td><td>※25ml</td></tr><tr><td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※13</td><td>※20</td><td>※12</td><td>※20</td><td>※50ml</td></tr><tr><td>・ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td></td><td></td><td>※25ml</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※25ml</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※50ml</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※50ml</td></tr></table> アンカーピン (4.2.2) 材質 ※ステンレス SUS 304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの ・ (4.2.2) 注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレス SUS 304、呼び径外径6mm ・ タイルの種類 (4.2.2)(4.5.7)(4.5.8) 施工箇所 形状寸法 きじ 釉薬 役物 色 備考 (mm) 磁器 セツ器 陶器 無釉 施釉 有 無 標準 特注 <table><tr><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr></table> 役物: 標準的な曲がり (小口、標準、二丁、屏風) の役物は一体成形とする。 タイルの見本焼き ※行わない ・行う 壁タイル張りの工法 (4.5.7)(4.5.8)(表4.5.3) 外装タイル ・密着張り ・マスク張り タイルの試験張り ※行わない ・行う ・目地ひび割れ部改修工法 (4.1.4)(4.5.16) ・伸縮目地改修工法 (4.1.4)(4.5.16) シーリング用材料 種類 ※改修標準表3.7.1による (3.7.2)(表3.7.1)	注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (cc/m)	備 考	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※		・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40	・	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70	・	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	・	充てん材料	品質・規格等	備 考	・シーリング用材料	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・行う	・可とう性エポキシ樹脂	・		接着剤の種類	品質・規格等	※ポリマーセメントモルタル ・変成シリコン樹脂 ・エポキシ樹脂 ・ポリウレタン樹脂 ・シリコン樹脂 ・タイル部分張替え工法用接着剤	「建設省官民連携共同研究所報告書『有機系接着剤を利用した外装タイル・石張りシステムの開発』(建設大臣官庁技術調査室監修平成9年2月)」における「外装タイル・石張り用接着剤の品質基準 (案)」に基づく品質性能試験に適合するタイプ1 であって監督職員の承認するもの又は特記による。	改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)	フカビの本数(本/㎡)		注入口の箇所数(箇所/㎡)		注入量	一般部	指定部	一般部	指定部	・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25			※25ml	・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25ml	・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※50ml	・ポリマーセメントスラリー注入工法	※9	※16			※25ml	・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25ml	・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※50ml	・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※50ml		・	・	・	・	・	・	・	・	・		・	・	・	・	・	・	・	・	・		・	・	・	・	・	・	・	・	・	⑤ 建具改修工事
注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (cc/m)	備 考																																																																																																																							
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※																																																																																																																								
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40	・																																																																																																																							
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70	・																																																																																																																							
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	・																																																																																																																							
充てん材料	品質・規格等	備 考																																																																																																																									
・シーリング用材料	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・行う																																																																																																																									
・可とう性エポキシ樹脂	・																																																																																																																										
接着剤の種類	品質・規格等																																																																																																																										
※ポリマーセメントモルタル ・変成シリコン樹脂 ・エポキシ樹脂 ・ポリウレタン樹脂 ・シリコン樹脂 ・タイル部分張替え工法用接着剤	「建設省官民連携共同研究所報告書『有機系接着剤を利用した外装タイル・石張りシステムの開発』(建設大臣官庁技術調査室監修平成9年2月)」における「外装タイル・石張り用接着剤の品質基準 (案)」に基づく品質性能試験に適合するタイプ1 であって監督職員の承認するもの又は特記による。																																																																																																																										
改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)	フカビの本数(本/㎡)		注入口の箇所数(箇所/㎡)		注入量																																																																																																																						
	一般部	指定部	一般部	指定部																																																																																																																							
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25			※25ml																																																																																																																						
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25ml																																																																																																																						
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※50ml																																																																																																																						
・ポリマーセメントスラリー注入工法	※9	※16			※25ml																																																																																																																						
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25ml																																																																																																																						
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※50ml																																																																																																																						
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※50ml																																																																																																																						
	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																																																																		
	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																																																																		
	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																																																																		
1. 改修工法の適用 (5.1.3) <table><tr><th>建具の種類</th><th>かぶせ工法</th><th>撤去工法</th><th>適 用 箇 所</th></tr><tr><td>・アルミニウム製建具</td><td>・</td><td>・</td><td>※建具表による ・図示</td></tr><tr><td>・鋼製建具</td><td>・外部</td><td>・</td><td>※建具表による ・図示</td></tr><tr><td>・内部</td><td>・</td><td>・</td><td>※建具表による ・図示</td></tr><tr><td>・鋼製軽量建具</td><td>・</td><td>・</td><td>※建具表による ・図示</td></tr><tr><td>・ステンレス製建具</td><td>・</td><td>・</td><td>※建具表による ・図示</td></tr></table> ・特殊な建具の仮組 (建具番号:) (5.1.5) ・適用する () (5.1.7) 2. 見本の製作等 3. 防犯建物部品 4. アルミニウム製建具 外部に面する建具 (5.2.2)(表5.2.1) <table><tr><th>種 別</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>枠見込み(mm)</th><th>施 工 箇 所</th></tr><tr><td>・A種</td><td>S-4</td><td>※A-3</td><td>※W-4</td><td>※70</td><td>※図示</td></tr><tr><td>・B種</td><td>S-5</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td></td></tr><tr><td>・C種</td><td>S-6</td><td>A-4</td><td>W-5</td><td>100</td><td></td></tr></table> 防音ドアセット ・防音サッシ ・適用する 遮音性の等級 () 耐震ドアセット ・適用する 面内変形追随性の等級 () 断熱ドアセット ・断熱サッシ ・適用する 断熱性の等級 () 表面処理 ※B-1 ・B-2 (※ﾌﾞﾗｯｸ系 ・ﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ) (5.2.4)(表5.2.2) 屋内建具 表面処理 ※C-1又はB-1 ・C-2又はB-2 (※ﾌﾞﾗｯｸ系 ・ﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ) (5.2.4)(表5.2.2) 防虫網 (5.2.3) 網の種類 ・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製 (SUS316) 形 式 ※外部可動式 ・固定式 簡易気密型ドアセットの適用は特記による (5.3.2)(表5.3.1) 耐風圧性の適用は建具表による 特定防火設備の戸 ・適用する (5.3.4) 簡易気密型ドアセットの適用は特記による (5.4.2) 表面仕上げ ※H仕上げ ・鏡面仕上げ (5.5.4) 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ (補強有り) (5.5.5) 特定防火設備の戸 ・適用する (表5.5.1) ※製造所標準製作規定寸法許容差による (5.7.2)(5.7.3)(表5.7.1～表5.7.3) <table><tr><th colspan="2">開閉方法</th><th>センサの種類</th></tr><tr><td>※スライディングドア</td><td>・</td><td>・マットスイッチ</td></tr><tr><td>・スイングドア</td><td>・</td><td>・電子マットスイッチ</td></tr><tr><td>性能</td><td>・SSLD-1</td><td>※光線スイッチ</td></tr><tr><td>・SSLD-2</td><td>・</td><td>・音波スイッチ</td></tr><tr><td>・DSL-1</td><td>・</td><td>・熱線スイッチ</td></tr><tr><td>・DSL-2</td><td>・</td><td>・光電スイッチ</td></tr><tr><td>・SWD-1</td><td>・</td><td>・多機能便所スイッチ</td></tr><tr><td>・SWD-2</td><td>・</td><td>・タッチスイッチ</td></tr></table> ・凍結防止措置 (適用箇所は建具表による)	建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	適 用 箇 所	・アルミニウム製建具	・	・	※建具表による ・図示	・鋼製建具	・外部	・	※建具表による ・図示	・内部	・	・	※建具表による ・図示	・鋼製軽量建具	・	・	※建具表による ・図示	・ステンレス製建具	・	・	※建具表による ・図示	種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施 工 箇 所	・A種	S-4	※A-3	※W-4	※70	※図示	・B種	S-5	・	・	・		・C種	S-6	A-4	W-5	100		開閉方法		センサの種類	※スライディングドア	・	・マットスイッチ	・スイングドア	・	・電子マットスイッチ	性能	・SSLD-1	※光線スイッチ	・SSLD-2	・	・音波スイッチ	・DSL-1	・	・熱線スイッチ	・DSL-2	・	・光電スイッチ	・SWD-1	・	・多機能便所スイッチ	・SWD-2	・	・タッチスイッチ	6 内装改修工事																																															
建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	適 用 箇 所																																																																																																																								
・アルミニウム製建具	・	・	※建具表による ・図示																																																																																																																								
・鋼製建具	・外部	・	※建具表による ・図示																																																																																																																								
・内部	・	・	※建具表による ・図示																																																																																																																								
・鋼製軽量建具	・	・	※建具表による ・図示																																																																																																																								
・ステンレス製建具	・	・	※建具表による ・図示																																																																																																																								
種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施 工 箇 所																																																																																																																						
・A種	S-4	※A-3	※W-4	※70	※図示																																																																																																																						
・B種	S-5	・	・	・																																																																																																																							
・C種	S-6	A-4	W-5	100																																																																																																																							
開閉方法		センサの種類																																																																																																																									
※スライディングドア	・	・マットスイッチ																																																																																																																									
・スイングドア	・	・電子マットスイッチ																																																																																																																									
性能	・SSLD-1	※光線スイッチ																																																																																																																									
・SSLD-2	・	・音波スイッチ																																																																																																																									
・DSL-1	・	・熱線スイッチ																																																																																																																									
・DSL-2	・	・光電スイッチ																																																																																																																									
・SWD-1	・	・多機能便所スイッチ																																																																																																																									
・SWD-2	・	・タッチスイッチ																																																																																																																									
10. 自閉式上吊り引き戸装置	品質規格 ※改修標準5.8.3による ・製造所標準仕様による (5.8.3)(表5.8.1)	11. 木製建具 かまち戸の樹種 かまち (タモ) 銅板 (タモ) (16.6.2) ふすまの上張り ※新鳥の子又はビニル紙程度 (押入等の裏面は除く) (表16.6.3) ・鳥の子 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のメタノール放散量の等級 ※規制対象外 ・第三種																																																																																																																									
令和7年度 田淵行男記念館 屋根・外壁等改修工事		NO. A-02																																																																																																																									
特記仕様書 -改修(2)		SCALE -																																																																																																																									
		DATE 2025.08.12 SIGN																																																																																																																									

8-1
耐震改修工事及び耐震改修範囲以外の躯体改修工事

1.鉄筋の種類

(8.2.1)(表8.2.1)

種類の記号	呼び名 (mm)
・SD295	※D16以下
・SD345	※D19以上
・	

2.溶接金網

(8.2.2)

網目の形状、寸法及び鉄線の径	規 格
網目の形状、寸法(たて×よこ)鉄線の径または呼び(mm)	
※100×100	※6.0
・	JIS G3551による

3.鉄筋の継手

(8.3.4)(表8.3.3)

継手方法	呼び名(mm)	適用箇所
・ガス圧接		
・重ね継手		

4.鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

(8.3.5)(表8.3.6)

最小かぶり厚さは目地底から算定する。 ・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。	
施 工 箇 所	改修標準値8.3.6の値に加える寸法 (mm)
柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打放し面	※10

5.各部の配筋

(図8.3.4)

柱の配筋	・H形	・W－I形	※W－III形
帯筋の組立ての形の種別			

6.ガス圧接

(8.3.9)

圧接部の確認試験	※超音波探傷試験	・引張試験
----------	----------	-------

7.コンクリートの種別及び強度

(8.1.3)(表8.1.1)

レディミックスコンクリートの種別	※Ⅰ類	・Ⅱ類
普通コンクリートの設計基準強度		
設計基準強度F _c (N/mm ²)	適用箇所	
※21		
・24		

8.コンクリートの品質

(8.1.4)

スランプ	適用箇所
スランプ(cm)	
※18	
・	

9.普通コンクリート

(8.2.5)(表8.2.3)

セメントの種類	(※)
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	
・高炉セメントB種	
普通ポルトランドセメントは、JIS R5210に表示された規定のほか、次の規定の全てに適合するものとする。 ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。	
水和熱 Td	352J/g以下
28d	402J/g以下
混和材料	
混和材料の種類	※混和剤 ・ 混和材

10.無筋コンクリート

[6.14.3]

種 類	設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	粗骨材の最大寸法	適用箇所
※普通コンクリート	※18	※15又は18	※25mm	
・軽量コンクリート	・	・	・20mm	

11.高い強度のコンクリート

(8.9.1)(8.9.2)(8.9.4)

設計基準強度 (N/mm ²)	・27	・30	・33	・36
適用箇所 ()				
混和材料	※混和剤 (※高性能AE減水剤標準形又は遅延形)			

12.鉄骨製作工場

(8.1.5)

製作工場の加工能力	
・監督職員の承諾する製作者者	
※建築基準法第77条の4第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(社)全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「Rグレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場。	

13.入熱、バス間温度の溶接条件

(8.9.3)

適用箇所	※柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部
・図示	
鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件	
・図示	

14.施工管理技術者

[7.1.4]

※適用する	・適用しない
-------	--------

15.鋼材

(8.2.7)(表8.2.5)

種類の記号	使用箇所	規格等
S S 4 0 0	図示による	※ JIS規格品
		※ JIS規格品
		※ JIS規格品

16.スカラップ

※改良型スカラップ	・
-----------	---

17.高力ボルト

(8.2.8)

高力ボルトの適用	※トルシア形高力ボルト ・ J I S形高力ボルト ・ 熔融亜鉛めっき高力ボルト
----------	--

18.鉄骨工作仮組

(8.12.9)

・行う	※行わない
-----	-------

19.溶接部の試験

(8.14.11)(8.14.12)

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験	
※行う	

20.錆止め塗装

(8.16.3)

耐火被覆材の接着する面の塗装	
・行う(※JIS K5662)	※行わない

21.耐火被覆材

(8.17.2～8.17.7)

種 別	所要性能及び適用構造区分
・ラス張りモルタル塗り	
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール
吹付け	・半乾式吹付けロックウール
	・湿式ロックウール
・	
・耐火板張り	

22.既存コンクリート面の目荒し

(8.19.3)(8.20.3)

適用範囲	
※既存コンクリートとの打継ぎ面	
※既存コンクリートと珪藻土又はセラミック材の充填部の接合面	
・	
目荒らしの範囲	※柱・梁面 打継ぎ面又は接合面全面の3／4以上
※壁面	打継ぎ面又は接合面全面の1／3程度
目荒らしの程度	
※平均深さ5～10mm(最大深さ10～15mm)程度の凹部を施す	

23.珪藻土及びセラミック材

[7.10.3](表7.10.2)(8.2.10)

柱底等の均し珪藻土	※無収縮モルタル ・ 標仕表7.10.2によるB種セラミック材
珪藻土	※無収縮セラミック材の仕様は以下による
無収縮グラウト材	プレキャスト及び現場調合形
混和材	セメント系(酸化カルシウム及びガリウムサルファミンネート等によって膨張する性質を利用するもの)とする。
セメント	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする。
砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用させる砂の乾燥状態については規定しない。
無収縮グラウトの品質及び試験方法(現場調合形においては標準使用量・配合値)	
コンステンション	Jロートによる落下時間
	練混ぜ完了から3分以内の値は 8 ± 2 秒
フリージング	練混ぜ2時間後のフリージング率：2.0％以下
凝結時間	凝結開始時間 1時間以上
	終結時間 10時間以内
無収縮性	材齢7日 収縮しないこと
圧縮強度	材齢3日 25.0 N/mm ² 以上
	材齢28日 45.0 N/mm ² 以上
付着強度	材齢28日 2.5 N/mm ² 以上
塩化物質	0.30 kg/m ³ 以下
試験方法	(1)日本道路公団規格(JHS)「無収縮珪藻土品質管理試験方法」312-1999による。 なお、プレキャスト形と現場調合形で混和材が同一の場合はプレキャストのみ試験を行う。 (2)塩化量は、JIS A 5308 「レディミックスコンクリート」の9.6塩化含有量の試験方法による。
無収縮モルタル	
混和材	セメント系(酸化カルシウム及びガリウムサルファミンネート等によって膨張する性質を利用するもの)とする。
セメント	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする。
砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。
配合比	(各重量比) (セメント＋混和材)：砂＝1：1
無収縮モルタルの品質及び試験方法	
コンステンション	Jロートによる落下時間
	練混ぜ完了から3分以内の値は 8 ± 2 秒
フリージング	練混ぜ2時間後のフリージング率：2.0％以下
凝結時間	凝結開始時間 1時間以上
	終結時間 10時間以内
無収縮性	材齢7日 収縮しないこと
圧縮強度	材齢3日 25.0 N/mm ² 以上
	材齢28日 45.0 N/mm ² 以上
付着強度	材齢28日 3.0 N/mm ² 以上
塩化物質	0.30 kg/m ³ 以下
試験方法	(1)日本道路公団規格(JHS)「無収縮珪藻土品質管理試験方法」312-1999による。 (2)塩化量は、JIS A 5308 「レディミックスコンクリート」の9.6塩化含有量の試験方法による。

24.あと施工アンカーの材料

(8.2.4)

あと施工アンカーの材料	
・金属系アンカー(耐震補強用)	
※接着系アンカー	
接着剤の品質	※有機系 ・
アンカー筋の種類	※鉄筋コンクリート用棒鋼 ・ 全ネジボルト
カプセル型の施工による分類	※回転・打撃式 ・ 打込み式

25.あと施工アンカーの穿孔

(8.11.2)

穿孔前の埋込み配管等の探査	
範囲	※あと施工アンカー施工部分全て ・ 図示
方法	※探査器により探査し、配管等の位置の墨出を行う ・ はつり出しによる

26.あと施工アンカーの施工確認試験

(8.11.5)

アンカー筋	※行う(確認強度は図示による) ・ 行わない
-------	------------------------

27.断熱材兼用型枠

種 類	施工箇所	厚さ(mm)	品質等
・断熱材兼用型枠	・木質系	※壁(図示の範囲)	断熱抵抗
	・コンクリート系	・	=厚さ/熱伝導率
	・プラスチック系	・	=0.676(m ² ・K/W)以上
	製造所 建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの		

28.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

29.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

30.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

31.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

32.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

33.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

34.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

35.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

36.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

37.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

38.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

39.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

40.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

41.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

42.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

43.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

44.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

45.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

46.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

47.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

48.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

49.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

50.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

51.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

52.断熱材兼用型枠

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

53.断熱材兼用型枠

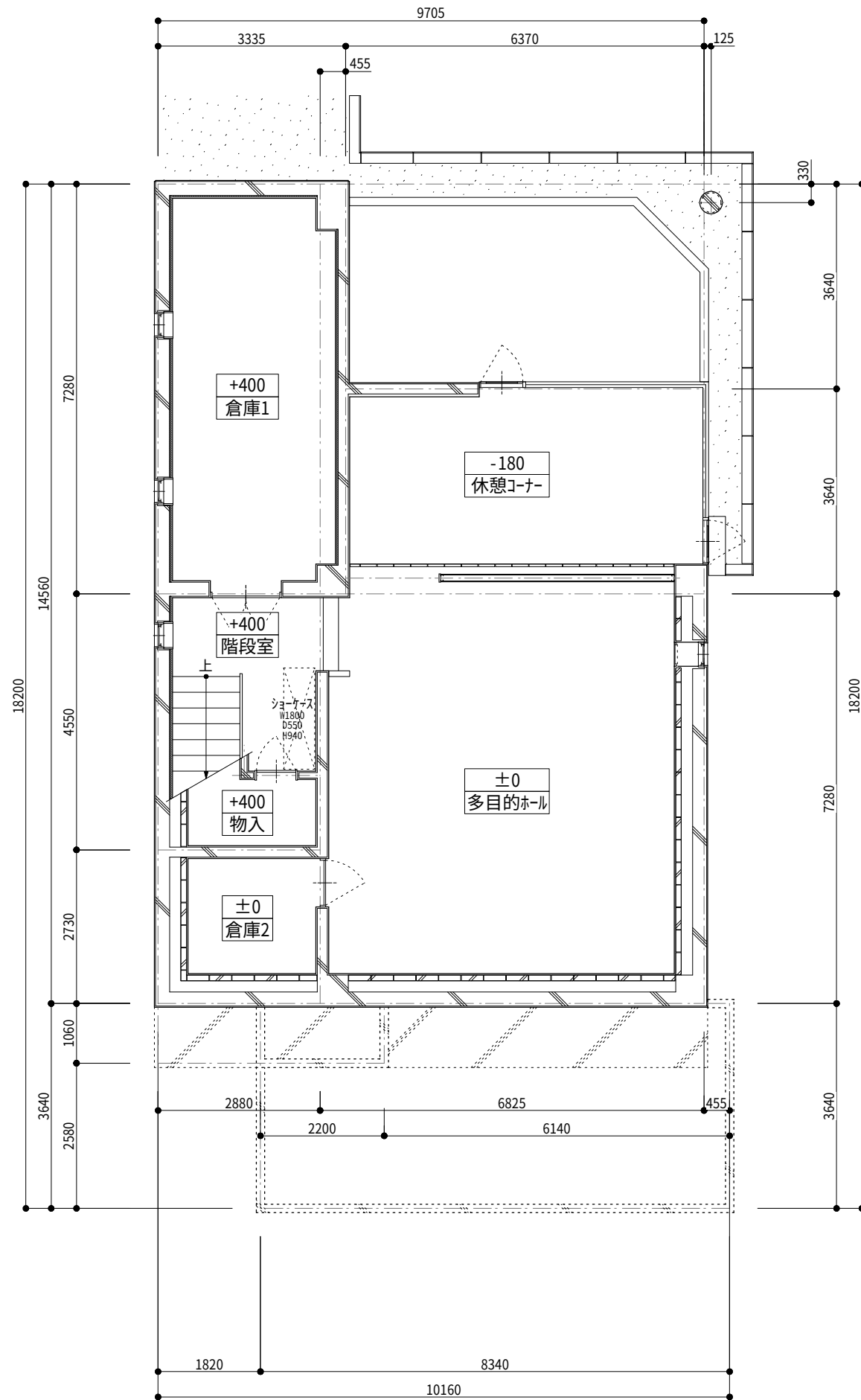
現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

54.断熱材兼用型枠

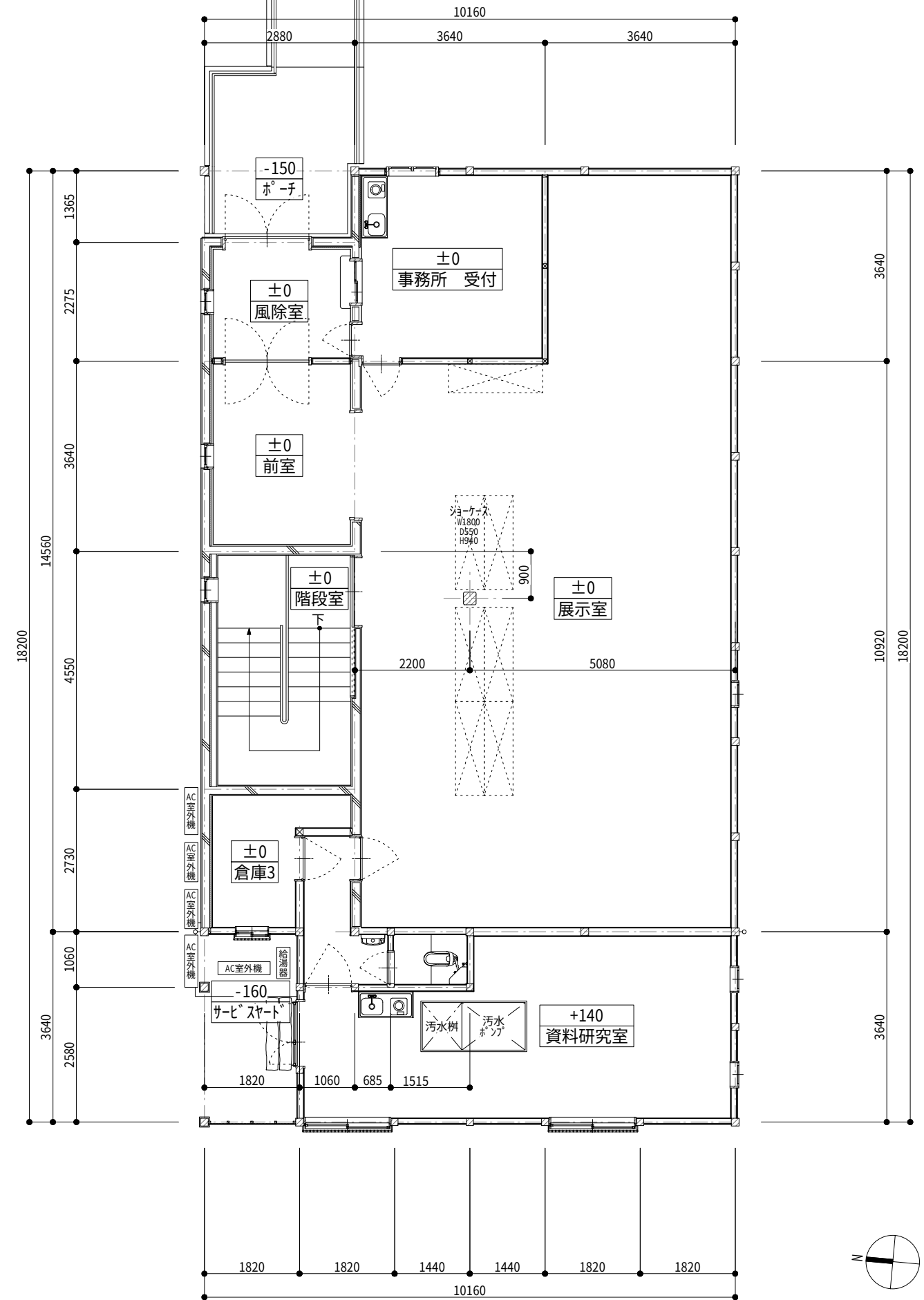
現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示

55.断熱材兼用型枠

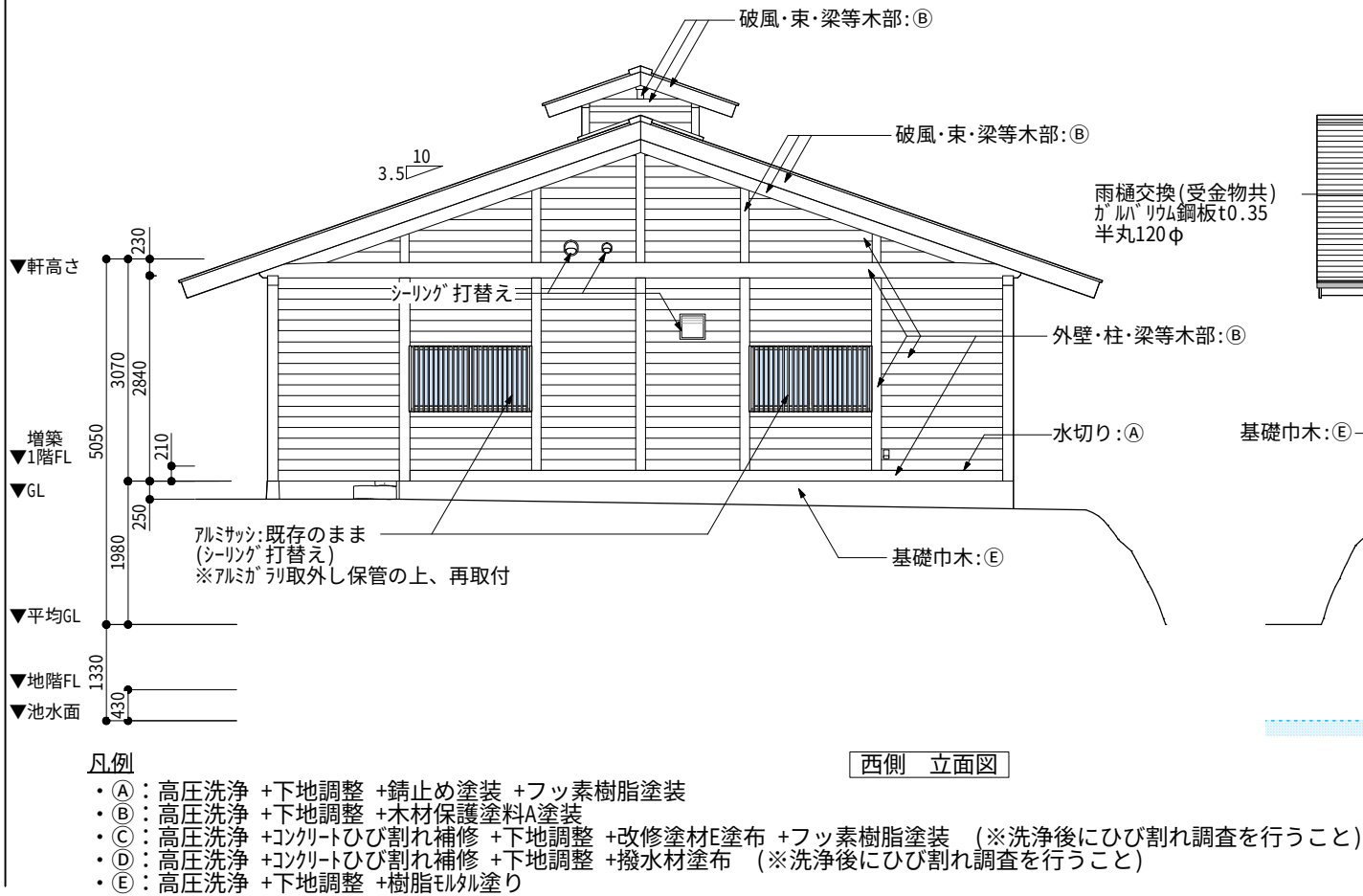
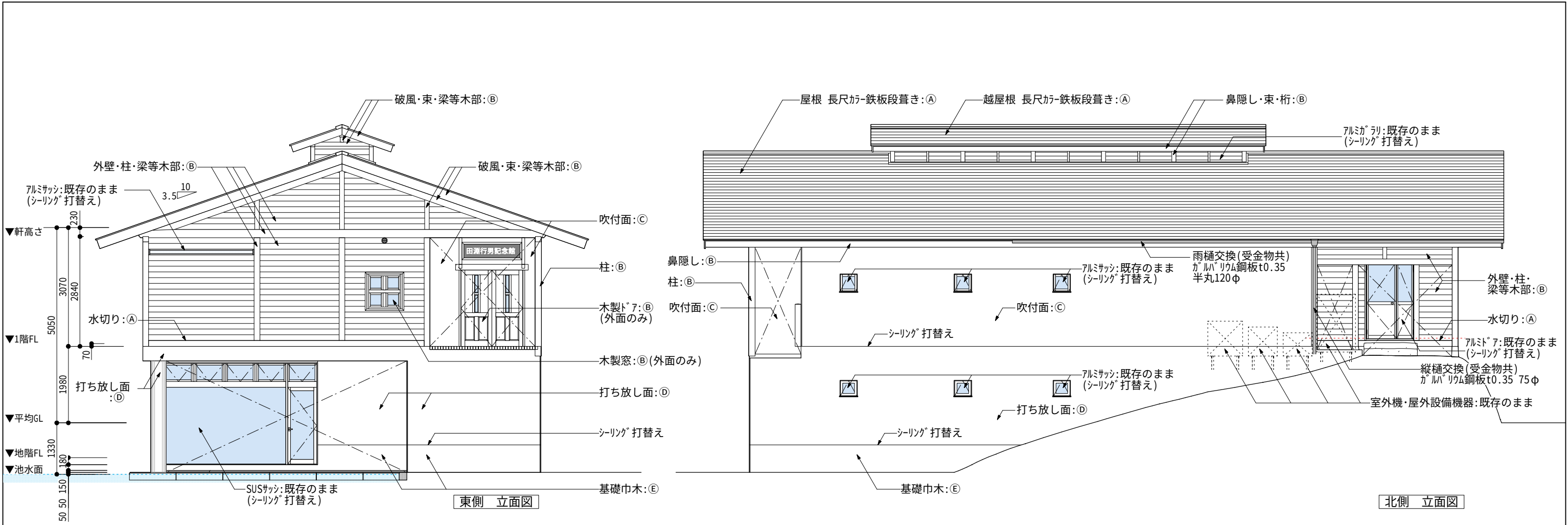
現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ	(8.2.4)
種類	※「23 あと施工アンカーの材料」による
間隔(mm)	※500×500 ・ 図示
工法の種類	(8.19.8)(8.21.5)
流し込み工法または圧入工法	
溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	(8.21.5)
柱頭柱脚の隙間部間の型枠	
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む	・ 図示



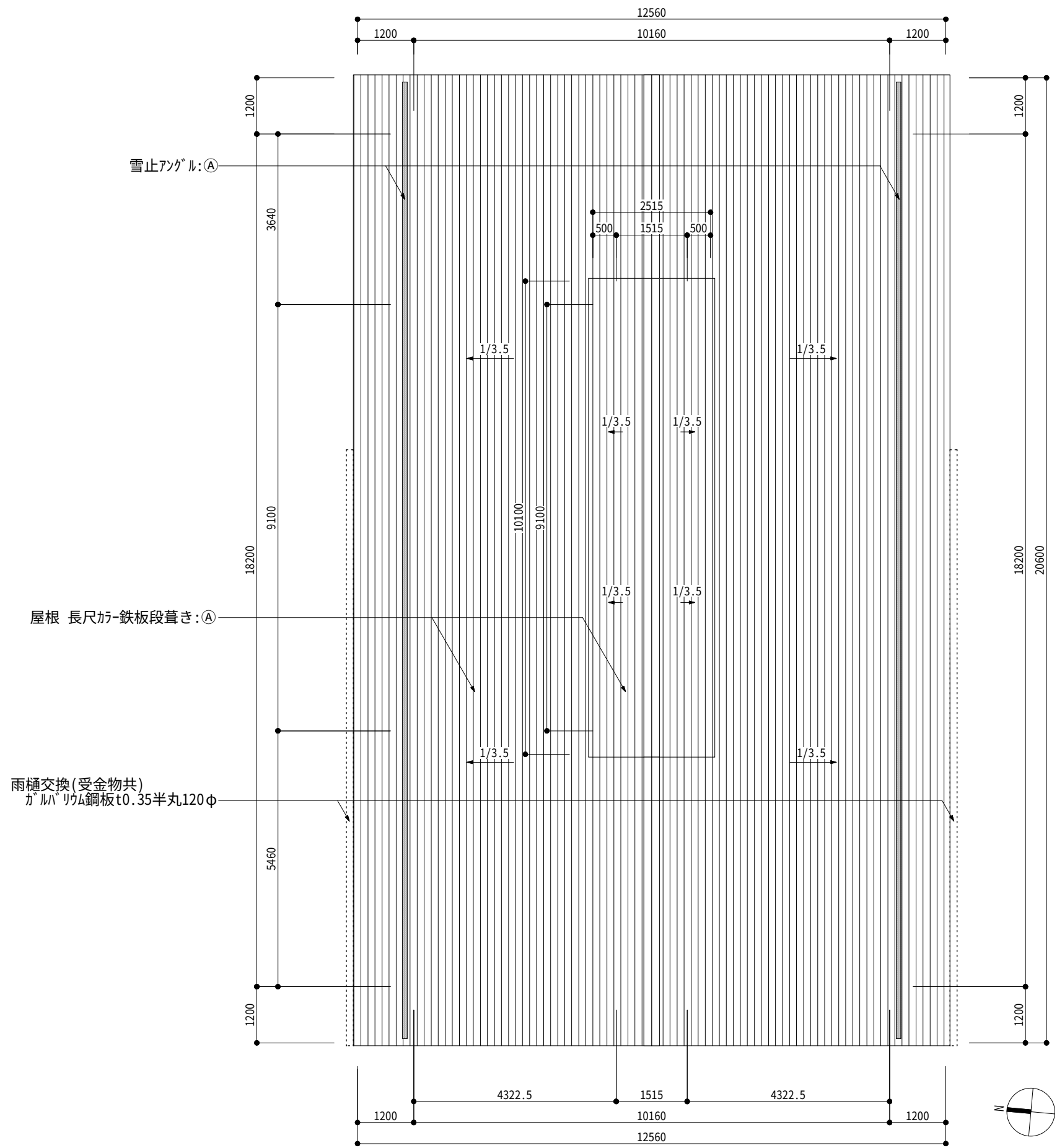
地階平面図



1階平面図

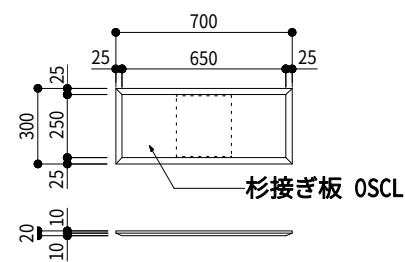
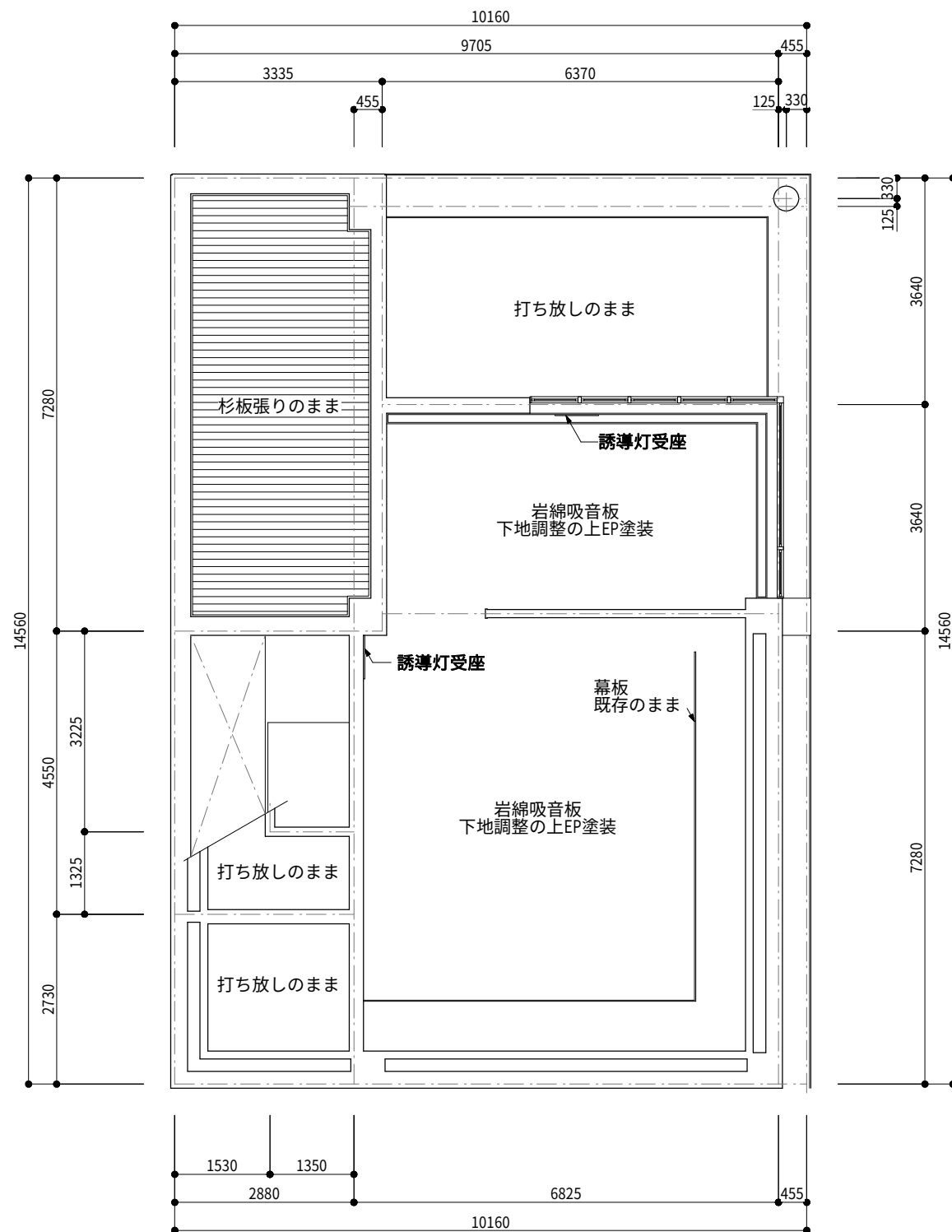


特記	※木材保護塗料A：大阪ガスケミカル シンテコール(同等品)			令和7年度 田淵行男記念館 屋根・外壁等改修工事		No.	
				改修図 立面図			A-08
				DATE	2025.08.12	SCALE	

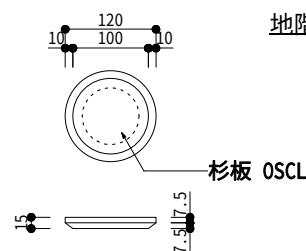


凡例
・㊶：高圧洗浄 + 下地調整 + 錆止め塗装 + フッ素樹脂塗装

特記			令和7年度 田淵行男記念館 屋根・外壁等改修工事		No.
			屋根伏図		A-09
				DATE 2025.08.12	SCALE 1/100



誘導灯受座 詳細図 1/30



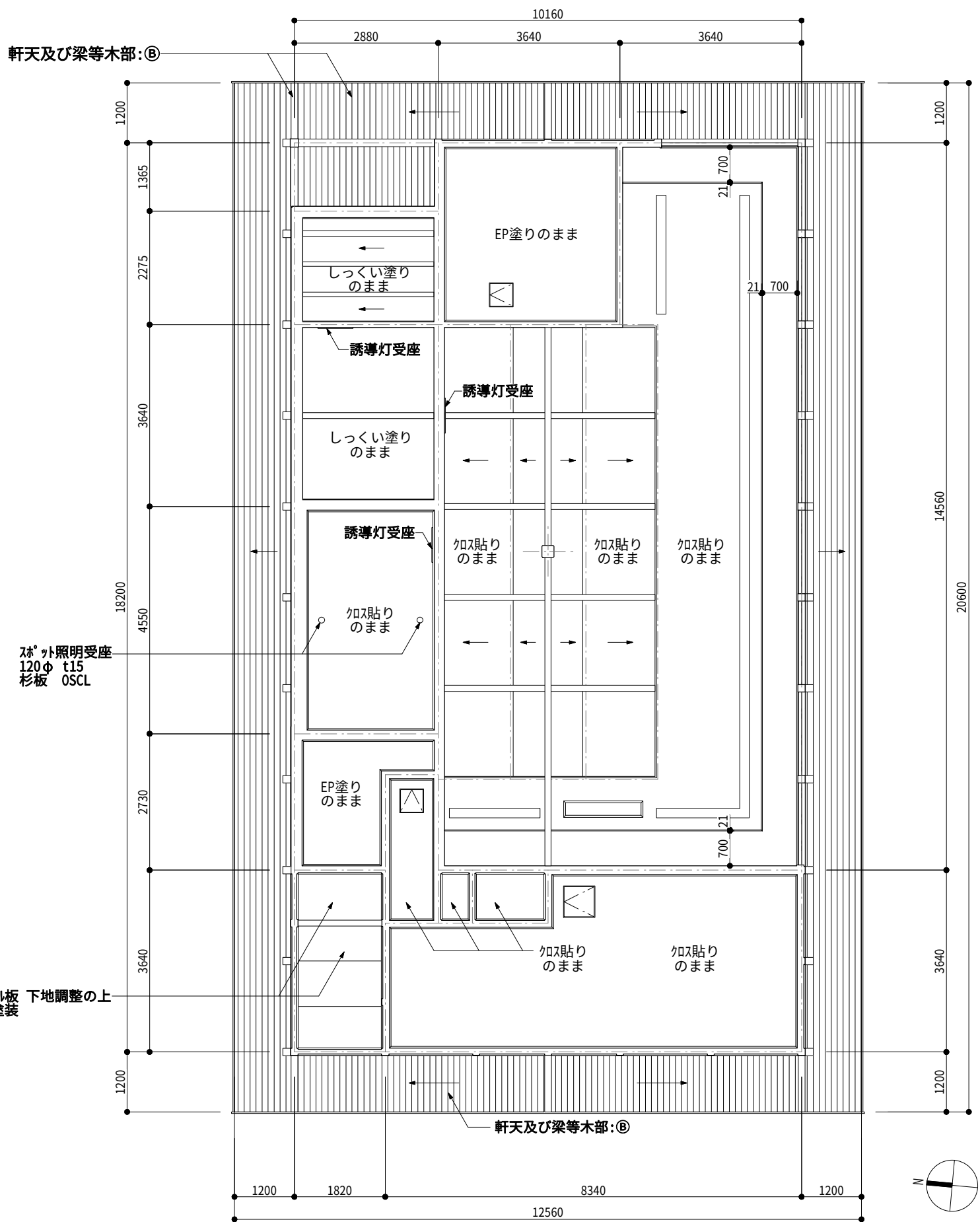
スポット照明受座 詳細図 1/10

凡例

・㊸：高圧洗浄 + 下地調整 + 木材保護塗料A塗装

特記 ※木材保護塗料A：大阪ガシカル シンデコール(同等品)

軒天及び梁等木部：㊸



石膏ボード 下地調整の上
OP塗装

1階天井伏図

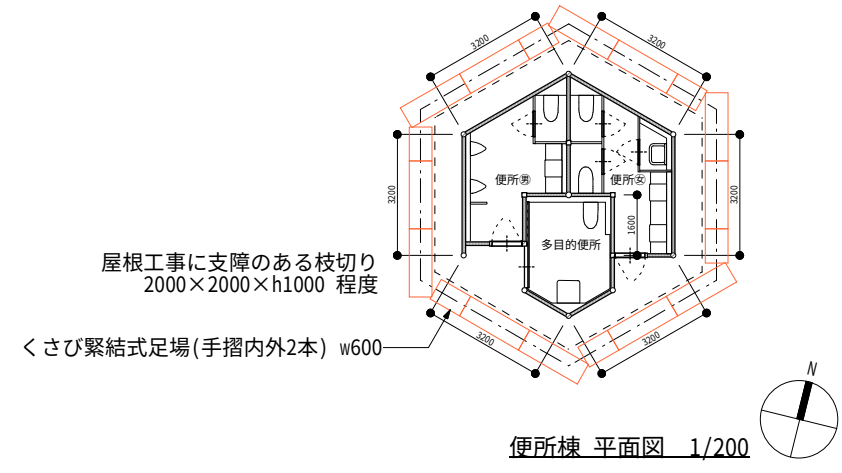
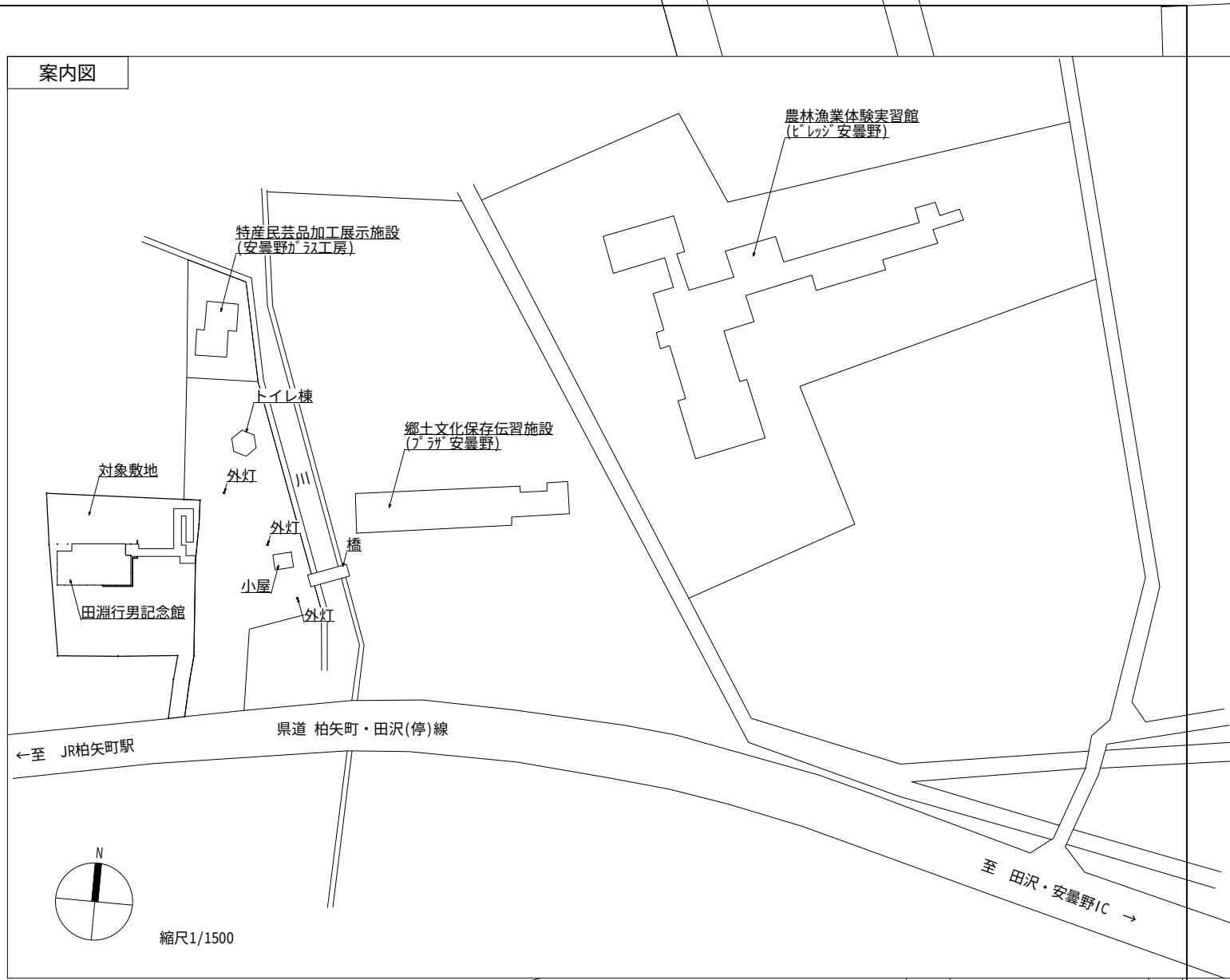
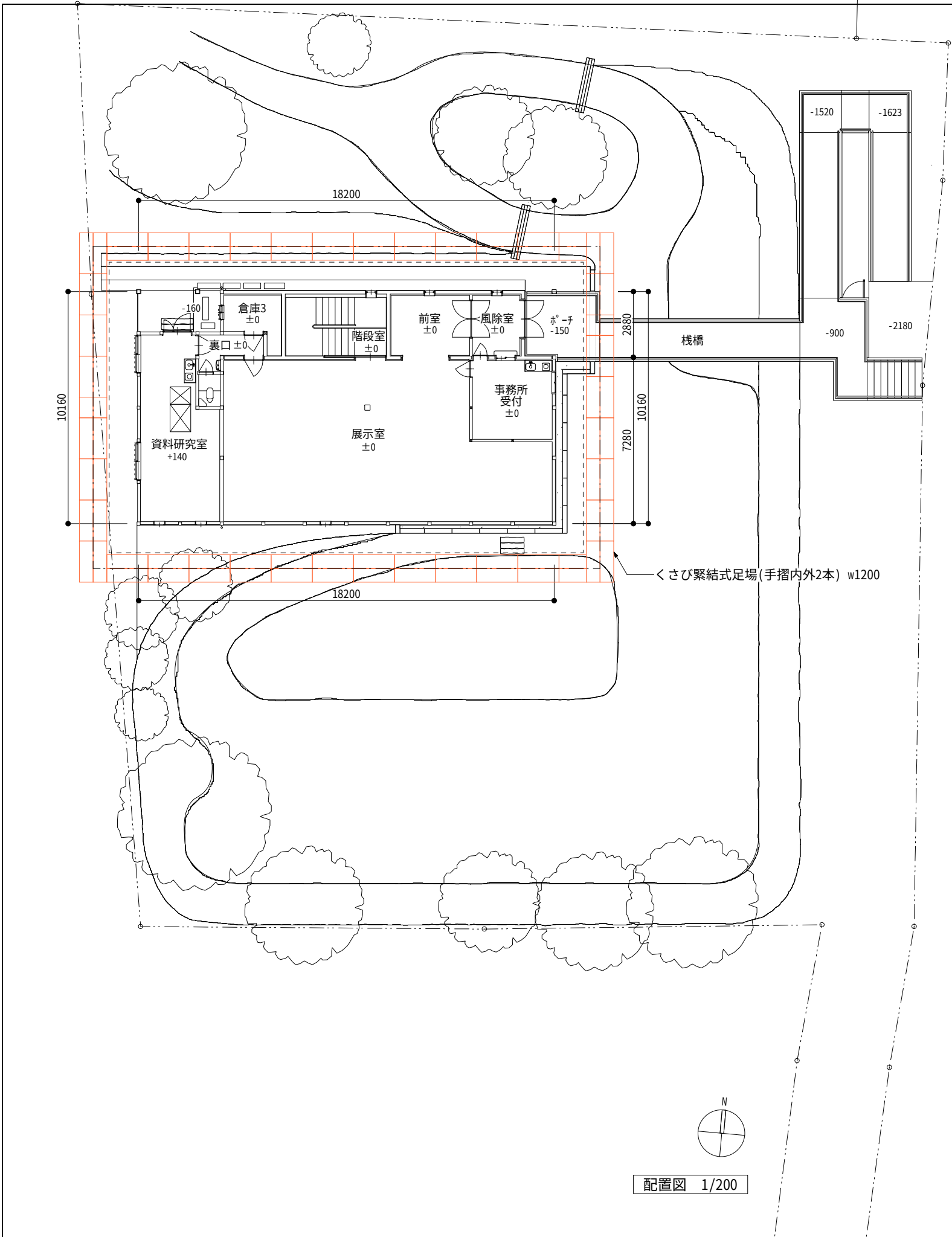
令和7年度 田淵行男記念館 屋根・外壁等改修工事
天井伏図

DATE 2025.08.12

NO. A-10
SCALE 1/100

A-11

SCALE 1/100



電 気 設 備 工 事 特 記 仕 様 書

| 工事概要

1 工事場所 長野県安曇野市豊科南穂高5078-2

2 建物概要

建 物 名 称	構 造	階 数	延 面 積 (㎡)	消防法施行令 別表第一の区分	備 考
田淵行男記念館		地上 1 階 地下 1 階			
便所棟		地上 1 階			

3 工 事 種 目 (○印のついたものを適用する。)

工 事 種 目	項 目	建 物 別 及 び 屋 外			
		田瀬行男記念館	便所棟		
電 灯 設 備	分岐	○	○	-	
動 力 設 備		-	-	-	
電 熱 設 備		-	-	-	
雷 保 護 設 備		-	-	-	
受 変 電 設 備		-	-	-	
静 止 形 電 源 設 備		-	-	-	
発 電 設 備		-	-	-	
非常用照明設備		○	-	-	
誘 導 灯 設 備		○	-	-	
構内情報通信網設備		-	-	-	
構 内 交 換 設 備		-	-	-	
情 報 表 示 設 備		-	-	-	
映 像 ・ 音 響 設 備		-	-	-	
拡 声 設 備		-	-	-	
誘 導 支 援 設 備		-	-	-	
テレビ共同受信設備		-	-	-	
監視カメラ設備		-	-	-	
駐車場管制設備		-	-	-	
防犯・入退室管理設備		-	-	-	
自動火災報知設備		-	-	-	
自動閉鎖設備		-	-	-	
非常警報設備		-	-	-	
ガス漏れ警報設備		-	-	-	
中央監視制御設備		-	-	-	
		-	-	-	-
構 内 配 電 線 路					-
構 内 通 信 線 路					-
					-
昇 降 機 設 備					-

4 図 面 目 録

番 号	図 面 名 称	番 号	図 面 名 称
1	電気設備 特記仕様書	21	
2	改修 配置図	22	
3	照明器具 家園	23	
4	改修 電灯設備 地階平面図 1階平面図	24	
5	改修 非常用照明、誘導灯設備 地階平面図 1階平面図	25	
6	改修・撤去 便所棟 電灯設備 平面図	26	
7	撤去 配置図	27	
8	撤去 電灯設備 地階平面図 1階平面図	28	
9	撤去 非常用照明、誘導灯設備 地階平面図 1階平面図	29	
10		30	
11		31	
12		32	
13		33	
14		34	
15		35	
16		36	
17		37	
18		38	
19		39	
20		40	

Ⅱ 工事仕様

1 共通仕様

- (1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁管轄部の「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和7年版)」(以下、「標準仕様書」という。)、公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和7年版)」(以下、「改修標準仕様書」という。))及び「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(令和7年版)」(以下、「標準図」という。)による。
- (2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。

2 特記仕様

特記仕様は別紙「特記仕様書（共通事項）」によるほか次の各項目による。

- (1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。

項 目	特 記 事 項				
①機 材 等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等なものとする。 ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 使用する機材が、社団法人・公共建築協会が発行する「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」等によって所定の評価を受けている場合は、監督職員への機材の品質及び 性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。				
2 機材の品質・性能証明	本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有する ものとし、次の(1)から(5)を満たすものとする。 (1)合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクル ボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを 放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 (2)保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散しないか、放散が極めて 少ないものとする。 (3)接着剤はフタル酸ジエーテルとフタル酸ジエーテルヘキシルを含有しない難 揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを 放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 (4)塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散しないか、放散が 極めて少ないものとする。 (5)上記(1)・(3)及び(4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他 の什器等は、ホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 なお、ホルムアルデヒドを放散しないものは放散量が規制対象外のもの、ホルムアルデ ヒドの放散が極めて少ないものは放散量が第三種のもの、原則として規制対象外の ものを使用するものとする。 ただし、該当する材料等がない場合は、第三種のものを使用するものとする。 また、「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。				
3 化学物質を放散する 建 築 材 料 等	ホルムアルデヒドの放散量				
	<table> <tr> <th>規 制 対 象 外</th><th>該 当 する 建 築 材 料</th></tr> <tr> <td></td><td> ①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b 接着剤等不使用 c 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散 させない材料使用 d ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 e 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散 させない塗料使用 f 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散 させない塗料等使用 </td></tr> </table>	規 制 対 象 外	該 当 する 建 築 材 料		①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b 接着剤等不使用 c 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散 させない材料使用 d ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 e 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散 させない塗料使用 f 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散 させない塗料等使用
規 制 対 象 外	該 当 する 建 築 材 料				
	①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b 接着剤等不使用 c 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散 させない材料使用 d ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 e 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散 させない塗料使用 f 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散 させない塗料等使用				
	<table> <tr> <th>第 三 種</th><th>該 当 する 建 築 材 料</th></tr> <tr> <td></td><td> ①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の5第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのE〇規格品 ④旧JASのF〇規格品 </td></tr> </table>	第 三 種	該 当 する 建 築 材 料		①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の5第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのE〇規格品 ④旧JASのF〇規格品
第 三 種	該 当 する 建 築 材 料				
	①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の5第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのE〇規格品 ④旧JASのF〇規格品				
4 電気保安技術者	電気事業法に定める自家用電気工作物に係る工事においては、電気保安技術者をおき、 電気工作物の保安の業務を行うものとする。				
5 電気工事士	契約電力500kW以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工を行う。				
6 実施工程表及び 施 工 計 画 書	(1)実施工程表、総合施工計画書は、工事着手に先立ち速やかに提出する。 (2)工種別の施工計画書は、当該工事に先立ち速やかに提出し、品質計画に係る部分は 監督職員の承諾を受けること。				
7 使用材料免注先調書	使用材料名、製造業者名、免注先等を記載した調書を作成し提出する。				
⑧発 生 材 の 処 理	(1)引渡しを要するもの ・ 無 () 有 (照明器具、LED電球) (2)引渡しを要するもの以外 () 有 () 有 () 有 () 有 () 有 () 有 () 有 () (3)特別管理産業廃棄物 () 有 () 有 () 有 () 有 () 有 () 有 () 有 () (4)再利用又は再資源化を図るもの () 有 () 有 () 有 () 有 () 有 () 有 () 有 () () 有 () 有 () 有 () 有 () 有 () 有 () 有 ()				
9 監督員事務所	・設けない ・設ける(規模:) ・備品()				
10 工事用仮設物	すべて請負者の負担とする。 構内に作ることが ・できる ・できない				
11 足場・さん橋類	・別契約の関係請負者が定置したものは、無償で使用できる。 ・本工事で設置する。 ・内部仮設足場等(・架台足場・移動式足場・移動式室内足場) ・外部仮設足場等(・A種・B種・C種・D種)・防護シート()				
12 工事用電力・水・その他	本工事に必要な工事用電力、水等の費用及び官公署その他の関係機関への手続き等に 要する費用は請負者の負担とする。				
13 工 事 写 真	工事の着手に先立ち、撮影計画の作成を行い、監督職員へ提出すること。				
14 しゅん工時提出書	標準仕様書及び別表による。				
⑮再 使 用 機 器	取外し再利用機器は、原則として清掃及び絶縁抵抗測定を行った後取り付ける。 ただし、絶縁劣化等て使用に耐えない場合は、監督職員に報告する。				
16 耐 震 施 工	設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針2014版(国土交通省国土技術 政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修)」による。なお、施工に際し、耐震 強度計算書を監督員に提出し、承諾を受けるものとする。 (1)設計用水平地震力 機器の重量[kN]に、設計用標準水平地震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合、設計用標準水平地震度は次による。				

項 目	特 記 事 項																																																										
	設計用標準水平地震度																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設置場所</th><th rowspan="2">機器種別</th><th colspan="2">特定の施設</th><th colspan="2">一般の施設</th></tr> <tr> <th>重要機器</th><th>一般機器</th><th>重要機器</th><th>一般機器</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階、 屋上及び塔屋</td><td>機 器</td><td>2.0⁰</td><td>1.5⁰</td><td>1.5⁰</td><td>1.0⁰</td></tr> <tr> <td>防振支持の機器</td><td>2.0⁰</td><td>2.0⁰</td><td>2.0⁰</td><td>1.5⁰</td></tr> <tr> <td rowspan="4">中 間 階</td><td>水槽類（※1）</td><td>2.0⁰</td><td>1.5⁰</td><td>1.5⁰</td><td>1.0⁰</td></tr> <tr> <td>機 器</td><td>1.5⁰</td><td>1.0⁰</td><td>1.0⁰</td><td>0.6⁰</td></tr> <tr> <td>防振支持の機器</td><td>1.5⁰</td><td>1.5⁰</td><td>1.5⁰</td><td>1.0⁰</td></tr> <tr> <td>水槽類（※1）</td><td>1.5⁰</td><td>1.0⁰</td><td>1.0⁰</td><td>0.6⁰</td></tr> <tr> <td rowspan="3">地下・1階</td><td>機 器</td><td>1.0⁰</td><td>0.6⁰</td><td>0.6⁰</td><td>0.4⁰</td></tr> <tr> <td>防振支持の機器</td><td>1.0⁰</td><td>1.0⁰</td><td>1.0⁰</td><td>0.6⁰</td></tr> <tr> <td>水槽類（※1）</td><td>1.5⁰</td><td>1.0⁰</td><td>1.0⁰</td><td>0.6⁰</td></tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設		一般の施設		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	上層階、 屋上及び塔屋	機 器	2.0 ⁰	1.5 ⁰	1.5 ⁰	1.0 ⁰	防振支持の機器	2.0 ⁰	2.0 ⁰	2.0 ⁰	1.5 ⁰	中 間 階	水槽類（※1）	2.0 ⁰	1.5 ⁰	1.5 ⁰	1.0 ⁰	機 器	1.5 ⁰	1.0 ⁰	1.0 ⁰	0.6 ⁰	防振支持の機器	1.5 ⁰	1.5 ⁰	1.5 ⁰	1.0 ⁰	水槽類（※1）	1.5 ⁰	1.0 ⁰	1.0 ⁰	0.6 ⁰	地下・1階	機 器	1.0 ⁰	0.6 ⁰	0.6 ⁰	0.4 ⁰	防振支持の機器	1.0 ⁰	1.0 ⁰	1.0 ⁰	0.6 ⁰	水槽類（※1）	1.5 ⁰	1.0 ⁰	1.0 ⁰	0.6 ⁰
設置場所	機器種別			特定の施設		一般の施設																																																					
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器																																																						
上層階、 屋上及び塔屋	機 器	2.0 ⁰	1.5 ⁰	1.5 ⁰	1.0 ⁰																																																						
	防振支持の機器	2.0 ⁰	2.0 ⁰	2.0 ⁰	1.5 ⁰																																																						
中 間 階	水槽類（※1）	2.0 ⁰	1.5 ⁰	1.5 ⁰	1.0 ⁰																																																						
	機 器	1.5 ⁰	1.0 ⁰	1.0 ⁰	0.6 ⁰																																																						
	防振支持の機器	1.5 ⁰	1.5 ⁰	1.5 ⁰	1.0 ⁰																																																						
	水槽類（※1）	1.5 ⁰	1.0 ⁰	1.0 ⁰	0.6 ⁰																																																						
地下・1階	機 器	1.0 ⁰	0.6 ⁰	0.6 ⁰	0.4 ⁰																																																						
	防振支持の機器	1.0 ⁰	1.0 ⁰	1.0 ⁰	0.6 ⁰																																																						
	水槽類（※1）	1.5 ⁰	1.0 ⁰	1.0 ⁰	0.6 ⁰																																																						
	（※1）水槽類にはオイルタンク等を含む。																																																										
	◎重要機器の定義は次のによる。																																																										
	・受変電設備 ・発電設備 ・直流電源設備 ・交流無停電電源装置 ・交換機 ・自動火災報知受信機 ・中央監視装置 ・																																																										
	◎上層階の定義は次のによる。																																																										
	2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、 10～12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階とする。																																																										
	(2)設計用鉛直地震力																																																										
	設計用水平地震力 $1/2$ とし、水平地震力と同時に働くものとする。																																																										
17 あと施工アンカー	(1)重要機器類は公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）8章の2節8.7.4及び10節による。 (2)上記以外の機器類は建築工事改修仕様書6章による。 (引抜き試験を ・ 実施する ・ 実施しない)																																																										
18 防火区画等の 貫通処理	電線等が、防火区画又は防火上主要な間仕切りを貫通する場合の施工状況について、 貫通箇所両側の両面から写真撮影し、工事写真として提出する。																																																										
19 電線・ケーブル	(1)EM-EFF は紫外線による劣化を抑制する性能を持たせ、「タシダ」製 EM-EFF と 表記されたものを使用する。																																																										
20 予 備 配 管	EM-UTP は JIS X 5150「構内情報配線システム」に準じ、絶縁材料及びシースに JIS規格によるEMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの。																																																										
21 呼 び 線	埋込分電盤からの立上り予備配管は、予備の配線用遮断器4個以下の場合は(25)を1本 5個以上の場合は(25)を2本、天井まで立上げる。																																																										
22 金属製電線管の塗装	長さ1m以上の入線しない電線管には、1.2 ⁰ mm以上のビニル被覆鉄線管を挿入する。 下記の露出配管は塗装を行う。 ・ 屋 外 ・ 屋 内 ()																																																										
23 埋 め 戻 し 土	・ 種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 管の下部は50mm以上砂を敷きならし、管の上部100mm以上砂をういて締め固める ・ 埋外敷出処理 ・ 構内の指定箇所に敷き均し																																																										
24 建設発生土の処理																																																											
25 ケーブル埋設票	(1) 地中線路には、ケーブル埋設票をもつける。 ・ 鉄製 ・ コンクリート製 (2) 低圧地中配線にあっても地中線埋設標識シートを敷設する。																																																										
26 ブルボックス	(3) 配管埋設幅が750mmを超える場合は、地中線埋設標識シートは2条以上敷設する。 (1) 露出するブルボックスの本体及びふたの仕上げは、メラミン焼付塗装とする。 (2) 露出するブルボックスのふたの止めねじは化粧ビスとする。																																																										
27 フラッシュプレート	図面に特記あるもの及び特殊なものを除き ◎金属製 ・ 樹脂製																																																										
28 プレートの用途表示	ブルボックス、ジョイントボックス及び機器を安装しないプレートには、用途を明示 した略稱をつける。																																																										
29 配 線 器 具	タンブラースイッチは通形とする。 壁付コンセント(2P15A)は原則として通形とする。ただし、2口の場合は複式を 使用して良い。また(2P15A)以外はすべてキャップ付とする。 ・ 直付（ビス止め）型上下式（銅合金製 ・ アルミ製）とする ・ 直付（ビス止め）型垂直上下式（銅合金製）とする																																																										
30 フロアコンセント	本工事の動力制御盤より別途電機機等への配線の接続は本工事とする。																																																										
31 機器への接続																																																											
32 照 度 測 定	(1) 非常用照明の照度測定は設置後速やかに行い、監督職員に報告する。 (2) 学校施設における室内照度測定（測定教室： 箇所、測定黒板面： 箇所） ※教室の照度は、1教室当たり机上面9カ所、黒板垂直面9カ所で測定する。																																																										
33 盤 類	(1) 分電盤等の図面ホルダーに、単線結線図・絶縁抵抗測定表・接地抵抗測定表を 収納する。 (2) 端子盤には、線番表・結線表を備え付ける。																																																										
34 グリーン購入の推進	長野県グリーン購入推進方針に基づく調達項目 <資材> ・ 照明知照システム ・ 変圧器 ・ () <建設機器> ・ 排出ガス対策型建設機器 ・ 低騒音型建設機器																																																										
35 他工事又は他工種 との取り扱い	工事区分表（令和 年版）による。ただしこれより良い場合は監督職員と協議する。																																																										
36 その他及び電子納品	保険等の各種措置及び電子納品については、別添「特記仕様書（共通事項）」による。 （長野県公式ホームページ（電子入札システム）に掲載される、当該入札公告の添付図書）																																																										

3 ハンドホール

下表による。(梯子は各ハンドホールに設置する。蓋取外し用ジャッキを1組納入する。)
 ブロックハンドホール (寸法は内法を示す。底部とはハンドホール内側底部をいう。)
 ・コンクリート相互間などは、エポキシ系樹脂接着剤により接着する。
 ・ブロックの仕様は国土交通省仕様準ずるものとする。

・	ハンドホール No. -	1、500×1、500×1、500D 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	底部 GL-1、740以上 (アルミ梯子付)
・	ハンドホール No. -	1、200×1、200×1、500D 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	底部 GL-1、700以上 (アルミ梯子付)
・	ハンドホール No. -	1、000×1、000×1、400D 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	底部 GL-1、600以上 (アルミ梯子付)
・	ハンドホール No. -	1、000×1、000×1、100D 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	底部 GL-1、300以上 (アルミ梯子付)
・	ハンドホール No. -	1、000×1、000× 900D 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	底部 GL-1、060以上 (アルミ梯子付)
・	ハンドホール No. -	900× 900×1、100D 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	底部 GL-1、260以上 (アルミ梯子付)
・	ハンドホール No. -	900× 900× 900D 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	底部 GL-1、060以上 (既製足場付)
・	ハンドホール No. -	600× 600× 680D 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	(既製足場付)
・	ハンドホール No. -	450× 450× 680D 蓋 WPM-45B (Eマーク入)	※植栽等寄手間の通行の恐れがない場所、 収容ケーブルが少ない場所に限る

4 接 地 極

下表による。ただし、これによりがたい場合は監督員との協議による。

・	A 種 接 地	銅板 1.5t×900×900 リード端子付 堀削埋深中心深さ 2m	補助接地棒 (連結式 10φ×1,500) 2m 埋設棒 (黄銅製又はステンレス製)
・	B 種 接 地	銅板 1.5t×600×600 リード端子付 堀削埋深中心深さ 2m	補助接地棒 (連結式 10φ×1,500) 2m 埋設棒 (黄銅製又はステンレス製)
・	C 種 接 地	銅板 1.5t×300×300 リード端子付 堀削埋深中心深さ 1.5m	補助接地棒 (連結式 10φ×1,500) 1.5m 埋設棒 (黄銅製又はステンレス製)
○	D 種 接 地	接地棒 (10φ×1,500)	リード端子付 打ち込み式 埋設棒 (黄銅製又はステンレス製)

5 機器取付高

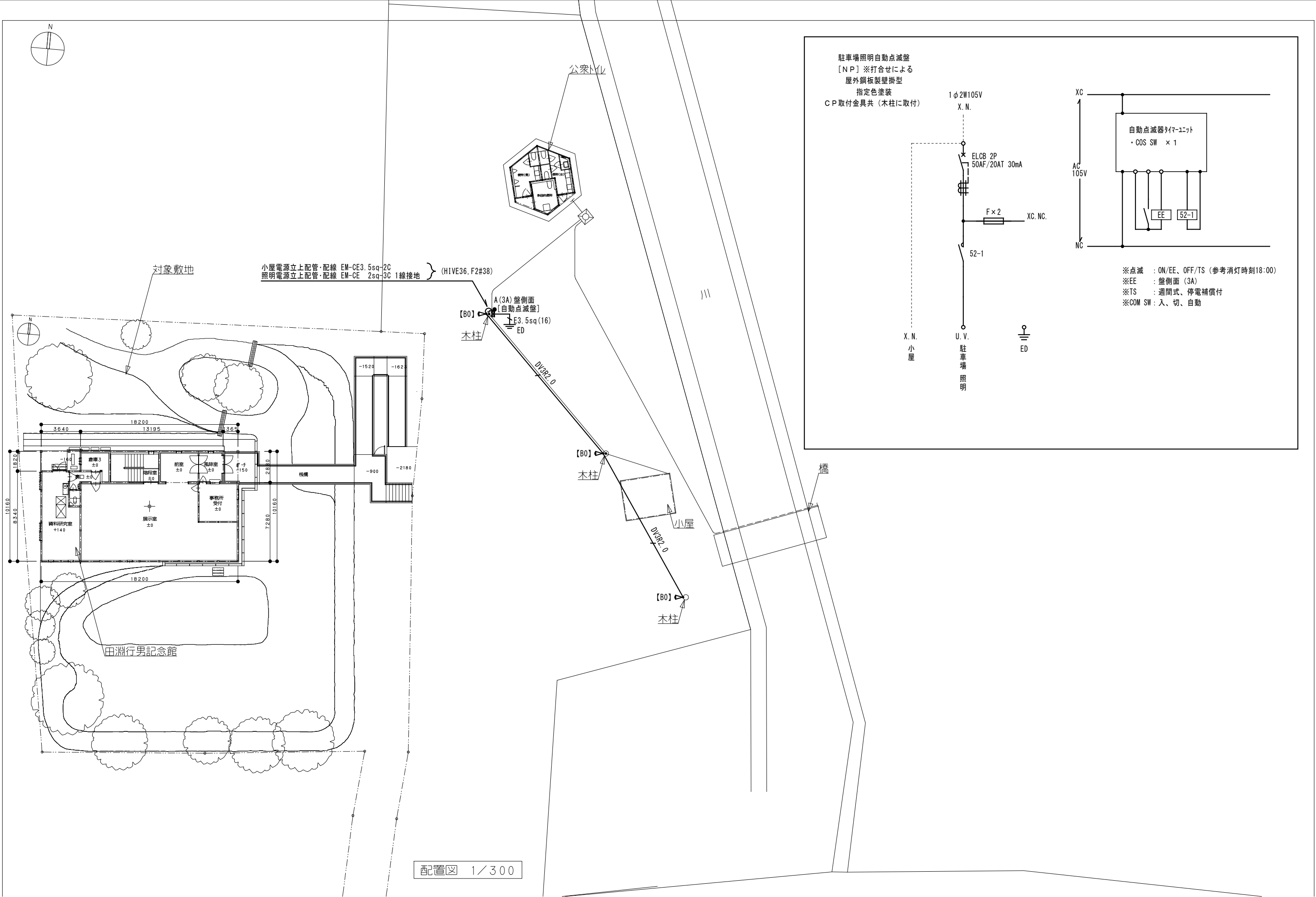
図面に特記なきものは下表を標準とする。但し下表によりがたい場合には監督員との協議による。

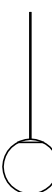
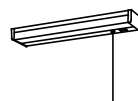
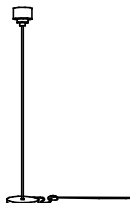
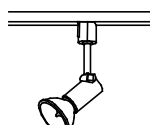
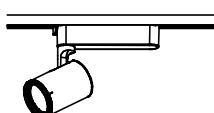
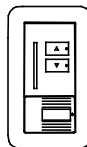
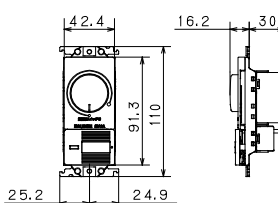
	名 称	測 点	取付高 (mm)		名 称	測 点	取付高 (mm)
共通	取引用計器	地上～上端	2,000	時計・ 拡声	壁掛け時計	床上～中心	1,500 (上端1,900以下)
	引込開閉器	床上～上端	1,800		子 時 計	〃	(天井高)×0.9
	警 報 盤	床上～中心	1,500		壁掛けスピーカ	〃	(天井高)×0.9
電	分 電 盤	床上～中心	1,500 (上端1,900以下)	表 示	アッテネーター	〃	1,300
	タンブラスイッチ	〃	1,300		表 示 器	床上～中心	(天井高)×0.9
	〃 (身障者用)	〃	1,100		壁付 発 信 器	〃	1,300
	コンセント(一般)	〃	300		ベ ッ ル	〃	(天井高)×0.9
	〃 (和室)	〃	150		ブ ザ ー	〃	(天井高)×0.9
	〃 (便所等)	〃	500		押 ボ タ ン	〃	1,300
	〃 (台上)	台上～中心	150		〃 (身障者用押)	〃	900
	ブラケット(一般)	床上～中心	2,100		身障者用表示灯	〃	2,000
	〃 (落湯)	〃	2,500		復 帰 ボ タ ン	〃	1,800
	〃 (鏡上)	鏡端～中心	150	イン タ ー 下	壁付インターホン	床上～中心	1,500
灯	避難口誘導灯	床上～下端	1,500以下		〃 (身障者用)	〃	1,100
	廊下誘導誘灯	床上～上端	1,000以下		壁付位置ボックス	〃	
動力	壁掛け制御盤	床上～中心	1,500 (上端1,900以下)	ー ホ ン	壁付インターホンをなく	〃	
	〃	〃	〃		〃 (一般)	〃	300
	〃	〃	〃		〃 (和室)	〃	150
	手元開閉器	〃	1,500	テ レ ビ 共 同 受 信	機 器 収 容 箱	床上～中心	(天井高)×0.9
電 話	操作スイッチ	〃	1,300		ア ウ ト レ ッ ト	〃	
	押ボタン	〃	〃		〃 (一般)	〃	300
	室内端子盤	床上～下端	300 (廊下・室内)		〃 (和室)	〃	150
	中間端子盤	床上～中心	1,500	火 災	受 信 機	床上～操作部	800～1,500
	EPSS(電気室)	〃	〃		調 信 機	〃	800～1,500
	集合保安器箱	〃	(天井高)×0.9		機 器 収 容 箱	床上～中心	800～1,500
	壁付アウトレット	〃	〃		報 警 器	〃	800～1,500
知	ボックス(一般)	〃	300	報 知	機 器 収 容 箱	〃	(天井高)×0.9
	〃 (和室)	〃	150		消 火 栓 表 示 灯	〃	(天井高)×0.9

●建物概要に記載無き事項は意匠図による。

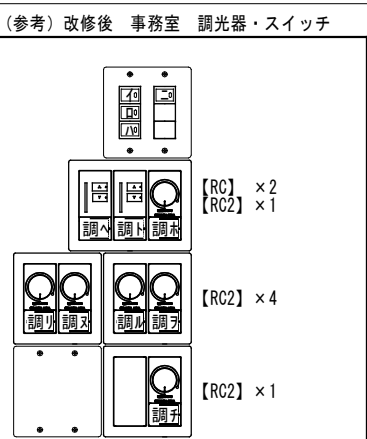
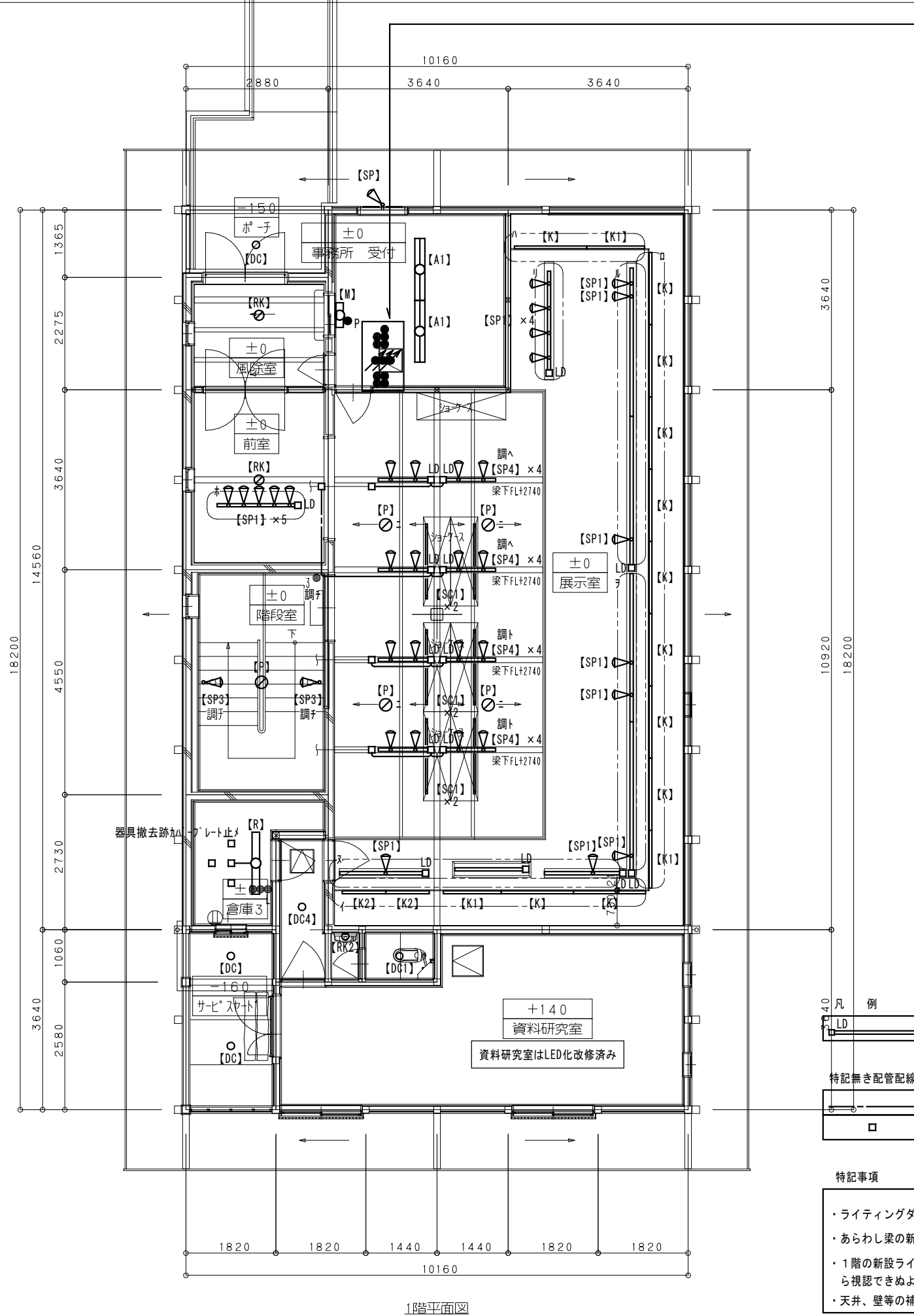
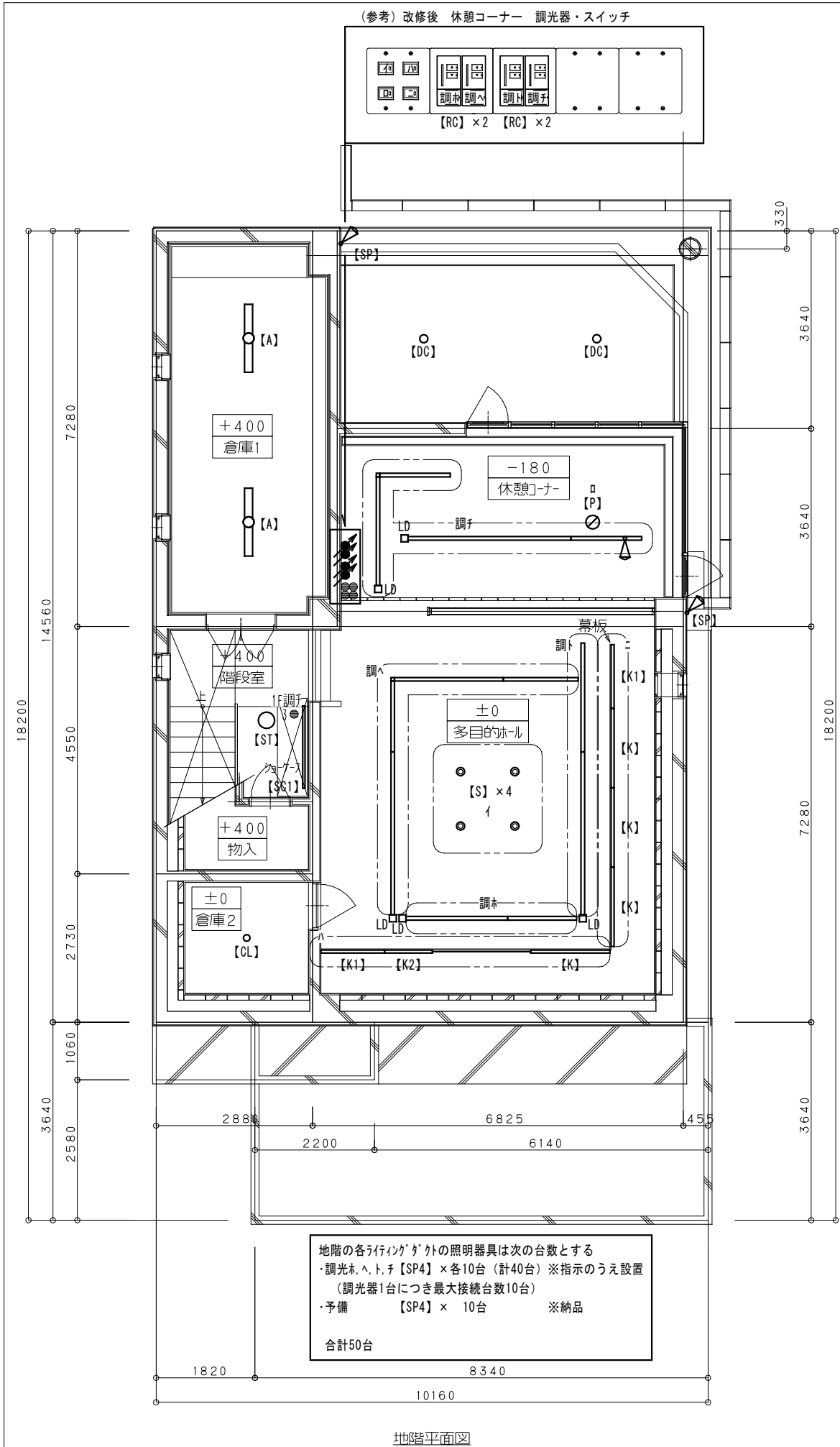
○特記仕様に記載無き事項は意匠図による。

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page. There are no margins or other markings on the paper.



A	LED直付天井灯	A1	LED直付天井灯	B0	LED防犯灯 蛍光灯FHP32形相当	CL	LEDシーリングライト 60形電球1灯器具相当	CS1	LEDシームレス建築部材照明器具	DC	LEDダウンシーリング 60形電球1灯器具相当	DC1	LEDダウンシーリング 60形電球1灯器具相当							
 一般タイプ、3200lmタイプ 消費電力20.6W、定格出力型、電圧100～242V 本体：銅板（白色粉末塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側内蔵		 一般タイプ、5200lmタイプ 消費電力31.9W、定格出力型、電圧100～242V 本体：銅板（白色粉末塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光束維持率40000時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側内蔵		 LED内蔵、電源ユニット内蔵、防まつ型、明るさセンサ内蔵、明光色 光束1070lm、消費電力9W、電圧100V 昼白色、5500K、Ra80、光源寿命60000時間（光束維持率80%） 本体：ASA樹脂（クールホワイト） 前面材（パネル）：アクリル 保護等級：IP44、露点-シ15kV 電力会社申請入力容量5.2VA		 昼白色（5000K）、Ra83 器具光束450lm、消費電力5.9W、電圧100V 拡散タイプ、天井裏付型・懸垂付型 カバー：アクリル（乳白）		 LED内蔵、電源ユニット別売、直付型 鋼材断面（約3%～100%）、5000K、Ra83 光束維持率40000時間（光束維持率70%） 器具光束12460lm、消費電力38.2W、電圧100～242V 本体：アルミ、樹脂カバー：ポリカーボネート（乳白） エントキャップ：ポリカーボネート（乳白） 幅：15、長：1515		 電球色（2700K）、Ra83 器具光束510lm、消費電力5.9W、電圧100V 防雨型、拡散タイプ カバー：プラスチック（ブラック）		 電球色（2700K）、Ra83 器具光束510lm、消費電力6.0W、電圧100V 拡散タイプ、天井裏付型 パネル：プラスチック（乳白） アルミダイカスト（ホワイト）		型番：LSS9-4-30	型番：LSS10-4-48	参考型番：NNY20358LE1	参考型番：LGB51510LE1	参考型番：NTN81350 + NTN81993L19	参考型番：LGW51515LE1	参考型番：LGB51677LE1
DC3	LEDシーリングライト 100形電球1灯器具相当	DC4	LEDシーリングライト 60形電球1灯器具相当	DW	LED軒下用ダウンライト 60形	K	LED建築化照明	K1	LED建築化照明	K2	LED建築化照明	P	LEDペンダント 60形電球1灯器具相当							
 昼白色（3500K）、Ra83 器具光束840lm、消費電力7.9、電圧100V 天井面：壁面取付専用 カバー：プラスチック（ホワイト） 送り用端子台付		 昼白色（5000K）、Ra83 器具光束600lm、消費電力6.2W、電圧100V LED内蔵、電源ユニット内蔵、PaPIRs・明るさセンサ付、拡散タイプ 光源寿命40000時間（光束維持率70%） カバー：プラスチック（ホワイト） 点灯照度調整機能付		 LED内蔵クワンコア（ひと粒）タイプ、電源ユニット内蔵、軒下用（防雨型） 3000K、Ra85、拡散タイプ、一般光色タイプ、光源光束角15度 器具光束1405lm、消費電力4.6W、電圧100～242V 光束維持率40000時間（光束維持率85%） 反射板（上部）：プラスチック（ホワイト） 反射板（下部）：銅板（ホワイトつや消し仕上） 枠：アルミダイカスト（ブラックつや消し仕上） パネル：アクリル（透明）、埋込穴：φ100		 電球色（2700K）、Ra83 器具光束2675lm、消費電力30W、電圧100V 天井裏付型・壁面付型・据置取付型、拡散タイプ （ホワイト）、カバー（乳白つや消し）付 位相制御式（2線式）、送り用端子台付 L1500タイプ		 電球色（2700K）、Ra83 器具光束2140lm、消費電力24.9W、電圧100V 天井裏付型・壁面付型・据置取付型、拡散タイプ （ホワイト）、カバー（乳白つや消し）付 位相制御式（2線式）、送り用端子台付 L1200タイプ		 電球色（2700K）、Ra83 器具光束1605lm、消費電力19W、電圧100V 天井裏付型・壁面付型・据置取付型、拡散タイプ （ホワイト）、カバー（乳白つや消し）付 位相制御式（2線式）、送り用端子台付 L900タイプ		 電球色（2700K）、高演色Ra90 器具光束729lm、消費電力7.4W、電圧100V 吊下型、引込シーリング方式、コード収納フランチ、コードハンガー付 カバー：アクリル（乳白つや消し）		参考型番：LGB51634LE1	参考型番：LGBC58030LE1	参考型番：XNW0631BLLE9	参考型番：LGB50074LB1	参考型番：LGB50071LB1	参考型番：LGB50068LB1	参考型番：LGB15031BF
R	LED直付天井灯	M	LEDキッチンライト 20形直管蛍光灯1灯器具相当	S	LEDダウンライト 60形	ST	LEDスタンド 25形電球1灯器具相当	SP	LEDスポットライト 150形ハイビーム電球1灯器具相当	SP1	LED電球 スポットライト	SP2	LEDスポットライト 60形電球1灯器具相当							
 一般タイプ、2000lmタイプ 消費電力13.1W、定格出力型、電圧100～242V 本体：銅板（白色粉末塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側内蔵		 昼白色（5000K）、Ra83 器具光束980lm、消費電力12W、電圧100V 拡散タイプ、壁面付型・棚下直付型、コンセント付、フルスイッチ付 カバー：プラスチック（乳白）		 LED内蔵クワンコア（ひと粒）タイプ、電源ユニット内蔵、一般光色タイプ 3000K、Ra85、拡散タイプ 光源光束角15度、光束維持率40000時間（光束維持率85%） 器具光束1585lm、消費電力4.2W、電圧100～242V 反射板（上部）：プラスチック（ホワイト） 反射板（下部）：銅板（ホワイトつや消し仕上） 枠：銅板（ホワイトつや消し仕上）、埋込穴φ125		 電球色（2700K）、Ra80、光源寿命40000時間（光束維持率70%） 器具光束391lm、消費電力4.3W、電圧100V 床置型、フットスイッチ付、ローリングキャップ付、コード3m付 （ホワイト）、セード：ガラス（乳白つや消し）		 電球色（2700K）、Ra80 器具光束1000lm、消費電力10.7W、電圧100V 防雨型 可動範囲上下80度、回転方向30度 アルミダイカスト（オフブラック）		 ランプ別売、下記型番、鋼光対応、広角タイプ、4.6W 灯具：アルミダイカスト（オフホワイトつや消し仕上） 天井取付専用 首長調節90度 100V配線ダクト用		 電球色（2700K）、Ra83 器具光束350lm、消費電力4.5W、電圧100V 拡散タイプ、壁面・天井面・据置取付専用 セード：アルミダイカスト（ブラック） 可動範囲上下90度、回転方向360度		参考型番：XFX410NENLE9	参考型番：LGB52095LE1	参考型番：XND0659WLLLE9	参考型番：SF965WF	参考型番：LGW40114	参考型番：NNN01531W + LDR5LWE11D	参考型番：LGS1001LLE1
SP3	LEDスポットライト 100形電球1灯器具相当	SP4	LEDスポットライト 100形	RK	LED電球 一般電球タイプ 60形相当	RK2	LED電球 小形電球タイプ 60形相当	RC	ライトコントロール LED用	RC2	LED埋込逆位相調光スイッチ									
 LEDフラットランプφ70 クラス700 1灯（口金GX53-1） 電球色（2700K）、Ra83 器具光束460lm、消費電力8.4W、電圧100V 拡散タイプ セード：プラスチック（ブラック） 位相制御式（2線式） 可動範囲上下92度、回転方向360度		 LED内蔵クワンコア（ひと粒）タイプ、電源ユニット内蔵、可動範囲型 一般光色タイプ、位相調光、鋼光可動範囲（約5度～100%） 100V配線ダクト取付型、首長角度約90度、水平回転角度360度 光束維持率40000時間（光束維持率70%） 2700K、Ra85、狭角～広角、配光調節機能付 出光角（17°）、器具光束600lm、消費電力8.1W、電圧100V 灯具：アルミダイカスト（ホワイトつや消し仕上）		 口金：E26 2700K、Ra84、広配光タイプ 全光束：800lm、消費電力：7.0W、電圧：100V 光束維持率40000時間		 口金：E17 3500K、Ra80、広配光タイプ 全光束：760lm、消費電力：7.1W、電圧：100V 光束維持率40000時間		 適合負荷：遮断機光型LED照明器具（起動方式LC・LG） 定格電圧：AC100V 定格電流：2A（但し電源ユニット最大10台まで） スイッチC（3路）付		 定 格：AC100V 200VA 適合LED専用		参考型番：XAS3003LCB1	参考型番：NTS01004WLG1	参考型番：LDA7LGSK6F	参考型番：LDA7WWGE17SK6	参考型番：NQ20346	参考型番：WTC57582W			

特 記



イ	間接照明	
ロ	間接照明	
ハ	間接照明	
ニ	展示室へッライト	×4台

調木	前室LD
調ハ	梁下LD(東4列)
調ト	梁下LD(西4列)

調リ	展示室LD
調ヌ	展示室LD

調ル	展示室LD
調ヲ	展示室LD

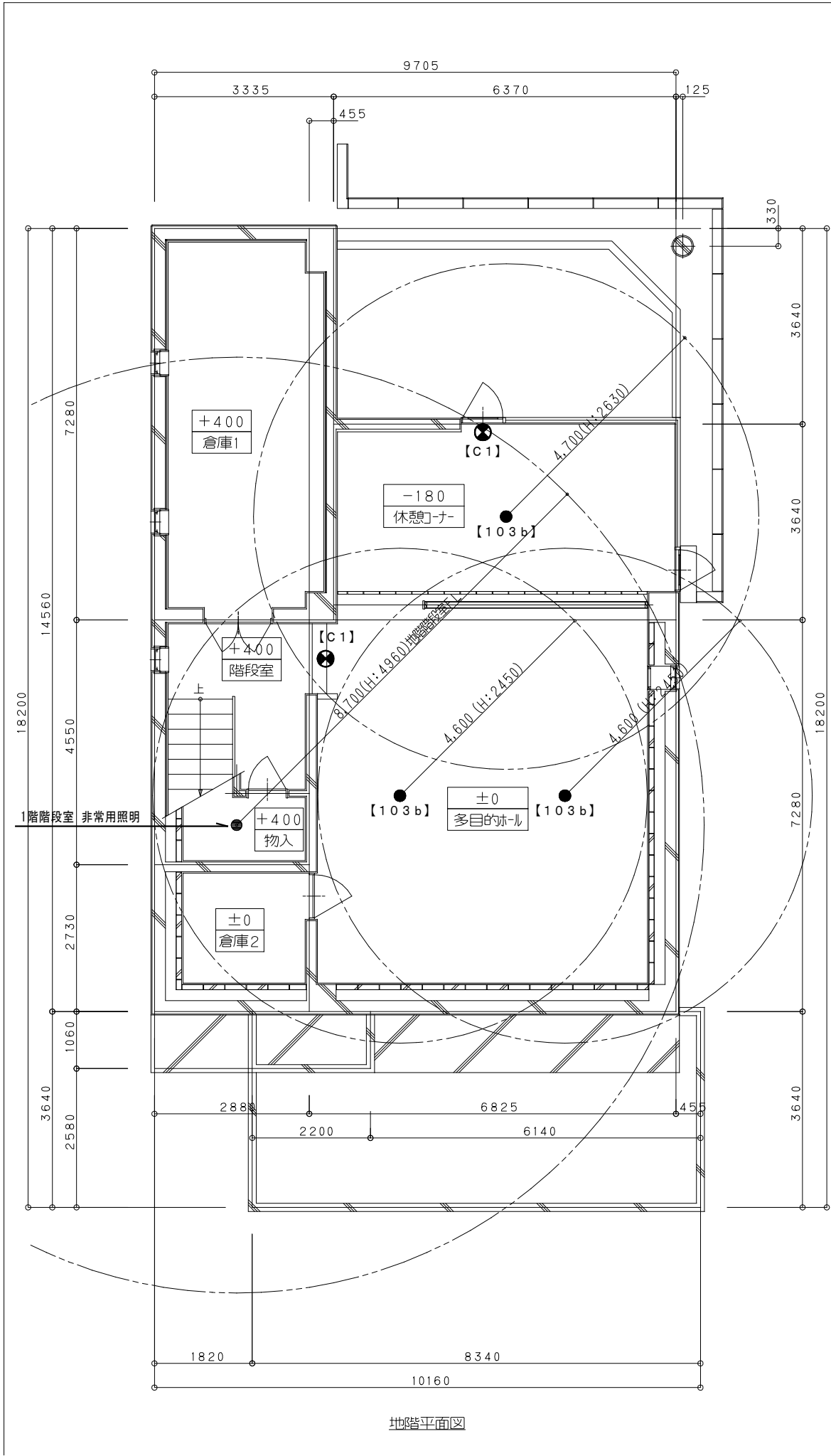
調チ	階段スポットライト	×2台
----	-----------	-----

(参考) ショーケース内照明器具【SC1】必要部材
・【SC1】 ×1組
・渡リコード L300 ×1本
・渡リコード L500 ×3本
・VCT2sq-3C ×1m（長さは打合せによる）
・コンセントプラグ ×1個
上記7式（地階×1式、1階×6式）

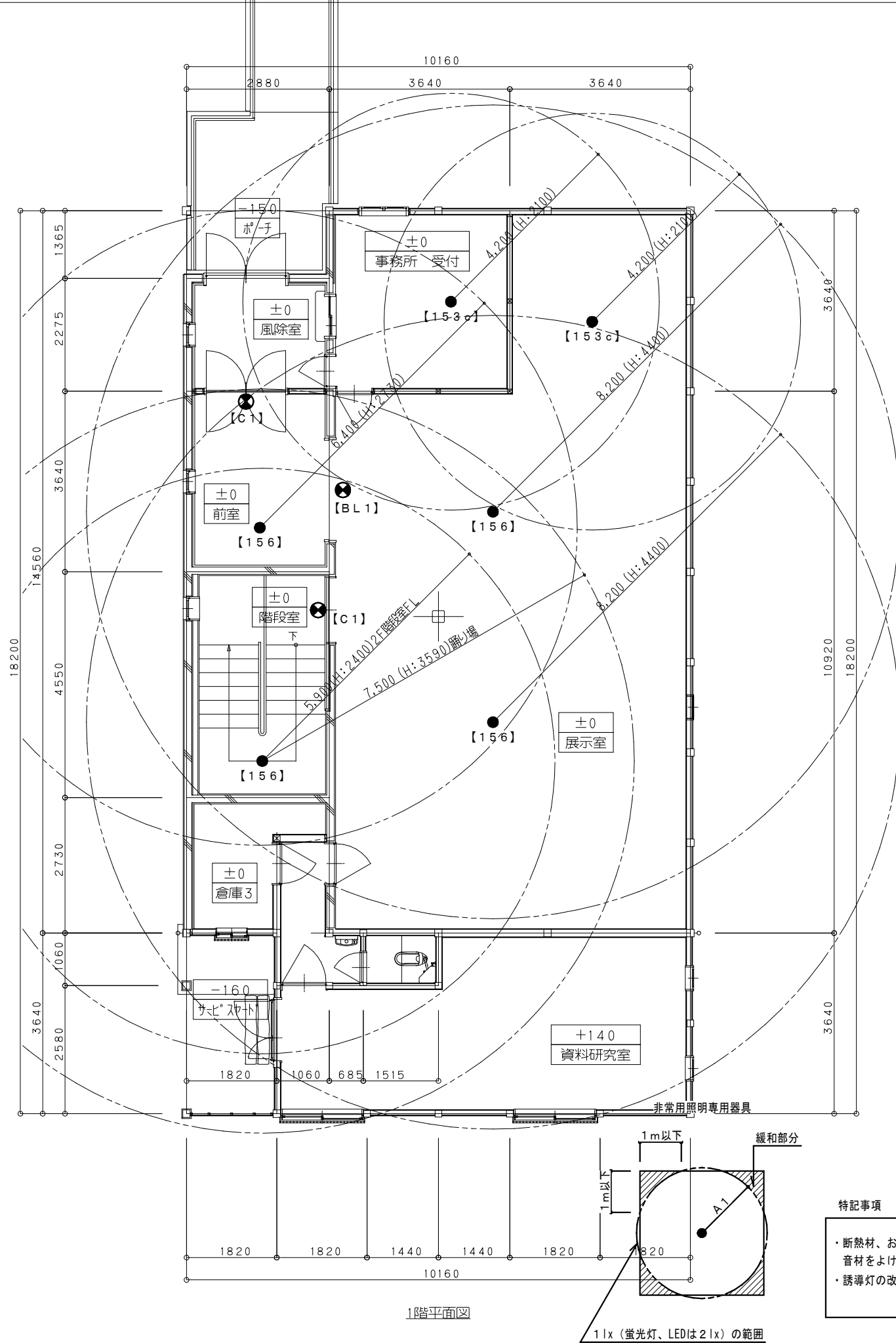
凡	例	
LD	ライティングダクト	125V 2P 15A
特記無き配管配線は下記による		
	EM-E E F 1.6-2 C	
□	ボックス	

特記事項

- ・ライティングダクト入線位置は参考とする。
- ・あられし梁の新設ライティングダクトの色は黒とする。
- ・1階の新設ライティングダクトへの配線は梁上露出配線とし、来館者から視認できぬよう施工すること。
- ・天井、壁等の補修が必要な箇所は建築工事とする。



地階平面図



1階平面図

C1	避難口誘導灯 C級 片面 LED1.1W 2.5VA
BL1	避難口誘導灯 B級・BL形 片面 LED1.7W 3.7VA



電 圧：100V
バッテリー内蔵

C1	型番：SH1-FBF20-C SH1-FSF20-C
BL1	型番：SH1-FBF20-BL SH1-FSF20-BL

103b 非常用照明 低天井用（～3m）

LED1.0W 2.0VA



バッテリー内蔵
埋込穴：φ100 埋込高：74
電 圧：100～242V

非常灯評定番号：LAL E-004	
配光番号：K0143780 保守率：0.92 (370lm)	
器具取付高さ	2.1m 2.4m 2.6m 3.0m 4.0m
単体配座	A1 4.2 4.6 4.7 4.9 3.3
直線配座	A2 9.3 10.2 10.8 11.9 12.9
四角配座	A4 7.4 8.2 8.7 9.6 11.7

型番：K1-LRS11-2

153c 非常用照明 低天井用（～3m）
断熱遮音施工用型 リニューアル用

LED1.0W 2.0VA



バッテリー内蔵
埋込穴：φ150 埋込高：80
電 圧：100～242V

非常灯評定番号：LAL E-004	
配光番号：K0143780 保守率：0.92 (370lm)	
器具取付高さ	2.1m 2.4m 2.6m 3.0m 4.0m
単体配座	A1 4.2 4.6 4.7 4.9 3.3
直線配座	A2 9.3 10.2 10.8 11.9 12.9
四角配座	A4 7.4 8.2 8.7 9.6 11.7

参考型番：NNFB91415C

156 非常用照明 中天井用（～6m）
リニューアル用

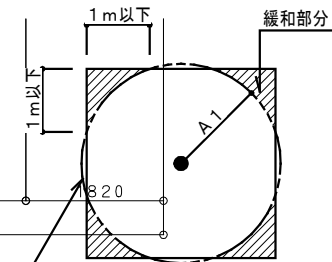
LED1.3W 2.5VA



バッテリー内蔵
埋込穴：φ150 埋込高：80
電 圧：100～242V

非常灯評定番号：LAL E-006	
配光番号：K0143775 保守率：0.92 (1050lm)	
器具取付高さ	2.1m 2.4m 2.6m 3.0m 4.0m 5.0m 6.0m
単体配座	A1 5.4 5.9 6.3 6.9 7.9 8.7 6.4
直線配座	A2 11.3 12.7 13.5 15.2 18.6 21.0 22.8
四角配座	A4 8.5 9.6 10.2 11.6 14.6 17.2 19.4

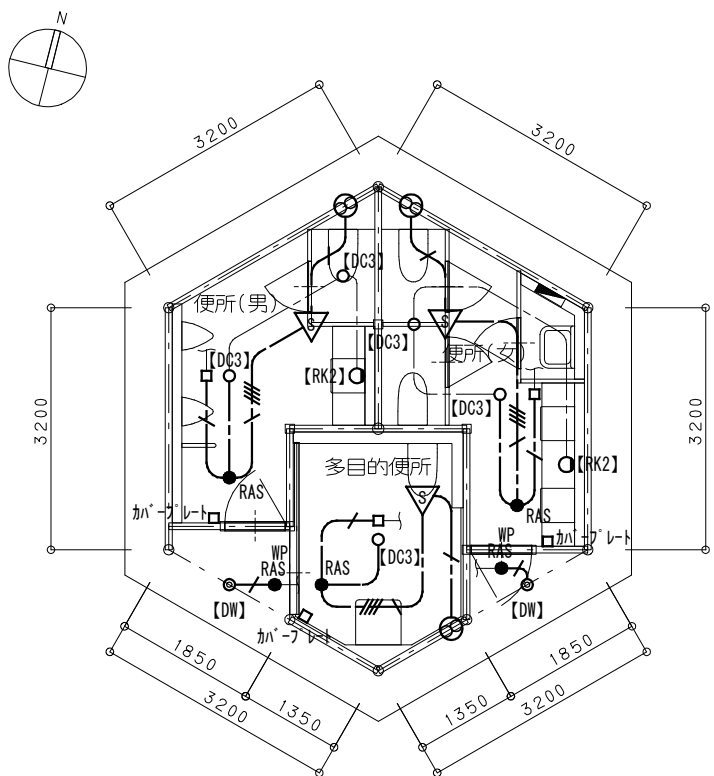
参考型番：NNFB93615C



1lx（蛍光灯、LEDは2lx）の範囲

特記事項

- ・断熱材、および遮音材施工不可の器具は、器具周囲の断熱材、および遮音材をよけて施工すること。
- ・誘導灯の改修については所轄消防署へ届け出を行うこと。



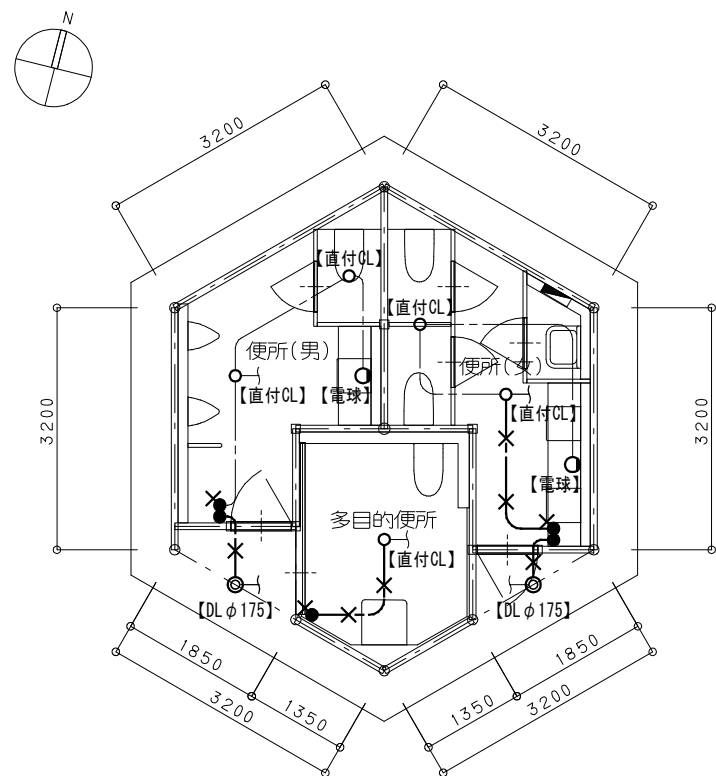
【DW】の既存開口(φ175)の塞ぎは建築工事

改修 電灯設備 平面図 1/100

特記無き配管配線は下記による		
	EM-EEF 1.6-2C	
	EM-EEF 1.6-3C	1線接地
	EM-EEF 1.6-2C+3C	1線接地
	ボックス	

凡 例		
	RAS	熱線センサー自動スイッチ 親器(または1箇所)
	RAS	熱線センサー自動スイッチ 子器 換気扇連動

特記事項		
・照明および換気扇は、熱線センサーでの点滅、運転とする。		



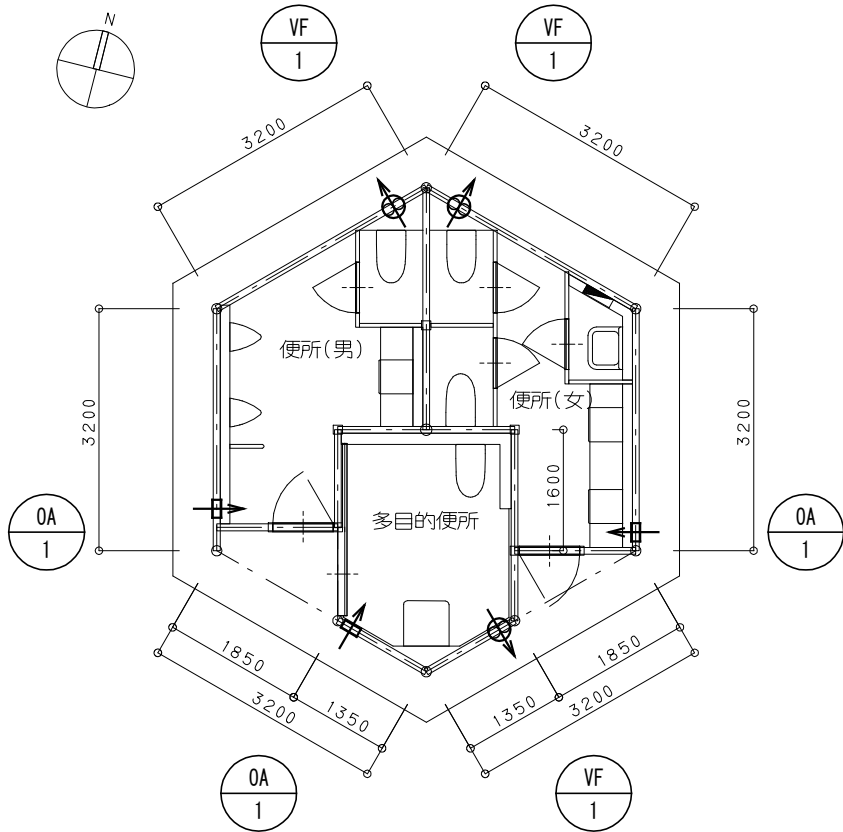
【DL φ175】の既存開口(φ175)の塞ぎは建築工事

撤去 電灯設備 平面図 1/100

特記無き配管配線は下記による	
	VVF 1.6-2C

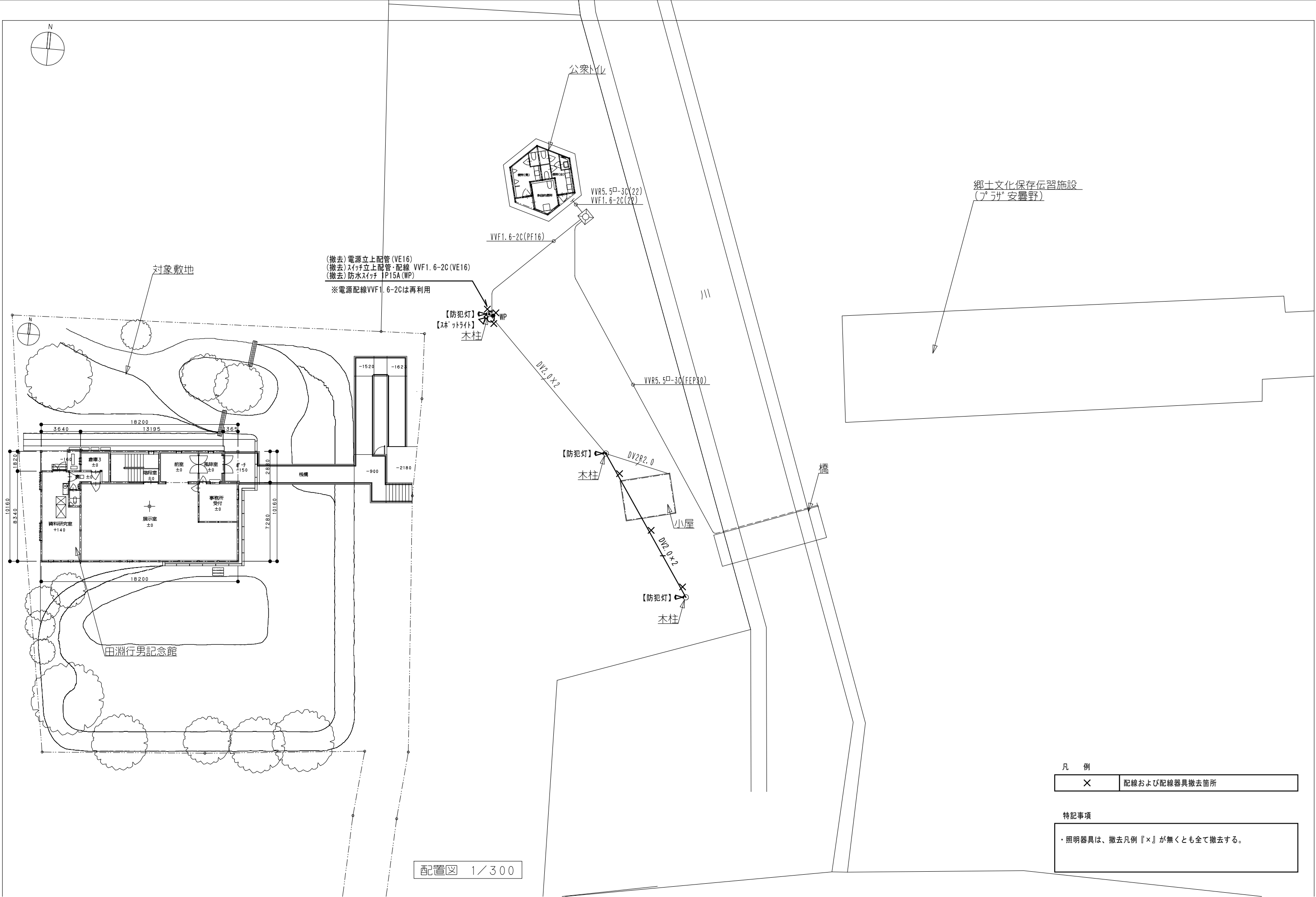
凡 例	
	配線および配線器具撤去箇所
	電球のみ撤去(灯具の撤去は行わない)

特記事項	
・照明器具は、撤去凡例『×』無くとも全て撤去する。	



改修 換気設備 平面図 1/100

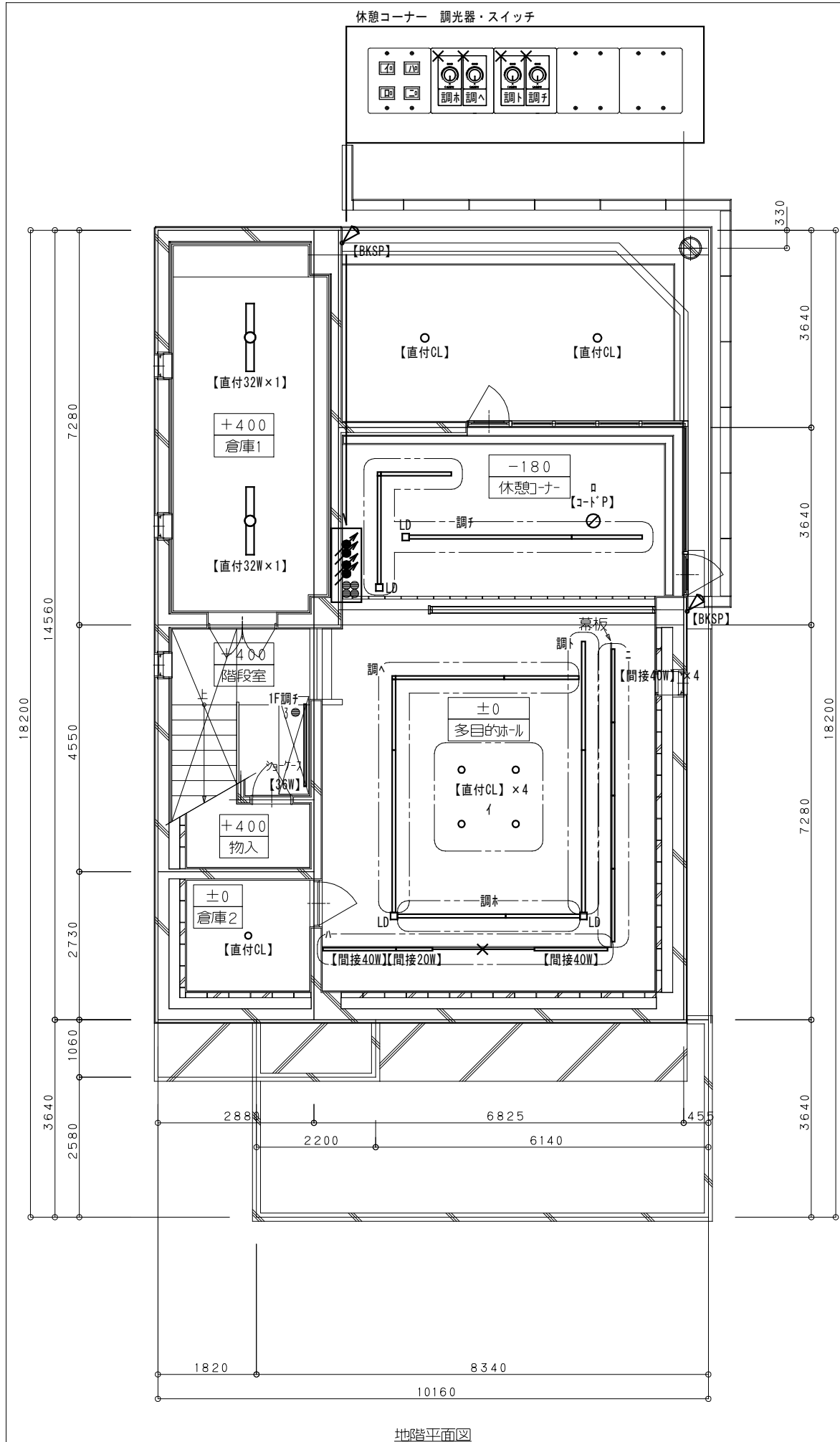
換気設備機器表								
記号	名称	台数	仕様・付属品	電気仕様			設置場所	備考
				φ	V	W		
VF-1	パイプ用ファン	3	形式 低騒音形	1	100	6.5W	便所(男) 便所(女) 多目的便所	V-12PSD8 + P-18FSQ5(指定色塗装) (防虫網付き)
			能力 145MHC×20Pa 150φ					同等品
			その他 電気式シャッター付、熱線センサー照明連動運転					同等品
OA-1	自然給気ユニット	3	形式 壁据付形				便所(男) 便所(女) 多目的便所	P-13WQU + P-13YSMQ3-BL(指定色塗装) (防虫網付き)
			能力 100φ					同等品
			その他 薄壁対応タイプ					同等品



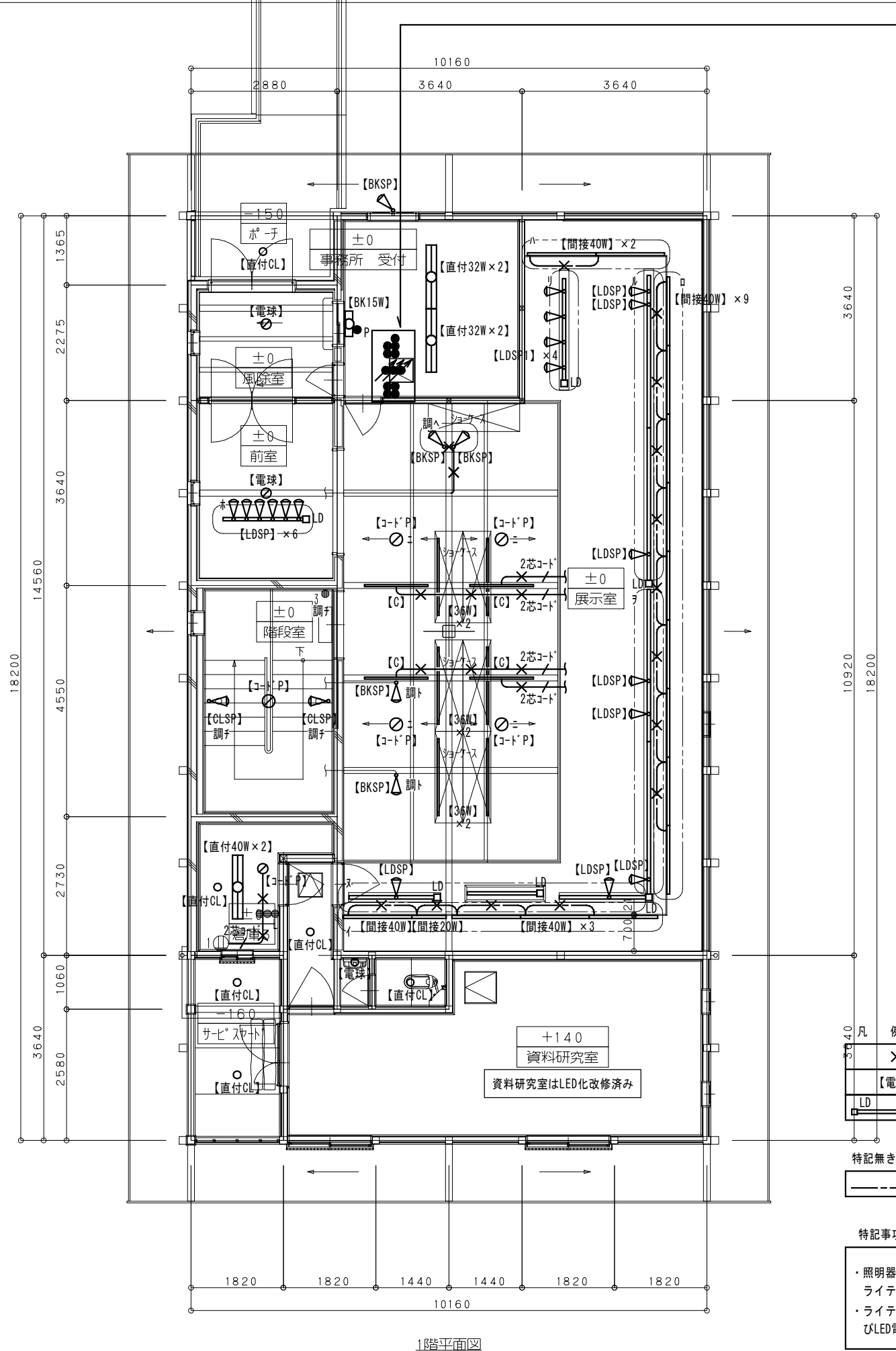
凡 例	
×	配線および配線器具撤去箇所

特記事項	
・照明器具は、撤去凡例『×』が無くとも全て撤去する。	

特 記			令和7年度 田淵行男記念館 外壁・屋根等改修工事		NO.
			撤去 配置図		E-07
				DATE 2025.08.12	SCALE 1/300



地階平面図



1階平面図

事務室 調光器・スイッチ

イ 間接照明
ロ 間接照明
ハ 間接照明
ニ 展示室ペンダント ×4台
ホ 前室LD

調ハ 梁ｽﾏｯﾄﾗｲﾄ(手前側) ×2台
調ロ 梁ｽﾏｯﾄﾗｲﾄ(奥側) ×2台
調チ 階段ｽﾏｯﾄﾗｲﾄ ×2台

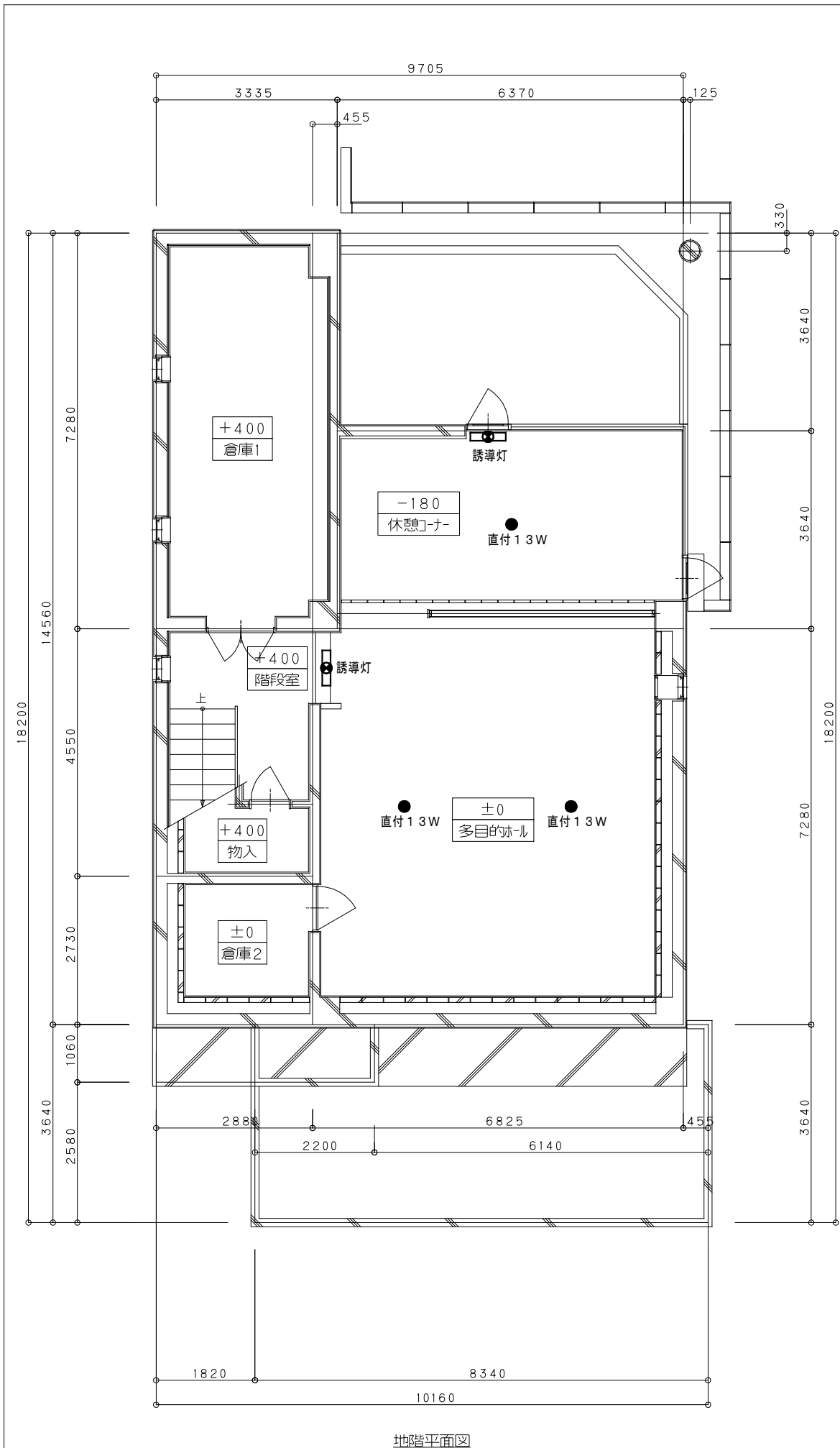
リ 展示室LD
ヌ 展示室LD
ル 展示室LD
ヲ 展示室LD

凡 例		
×	配線および配線器具撤去箇所	
【電球】	電球のみ撤去（灯具の撤去は行わない）	
LD	ライティングダクト	125V 2P 15A

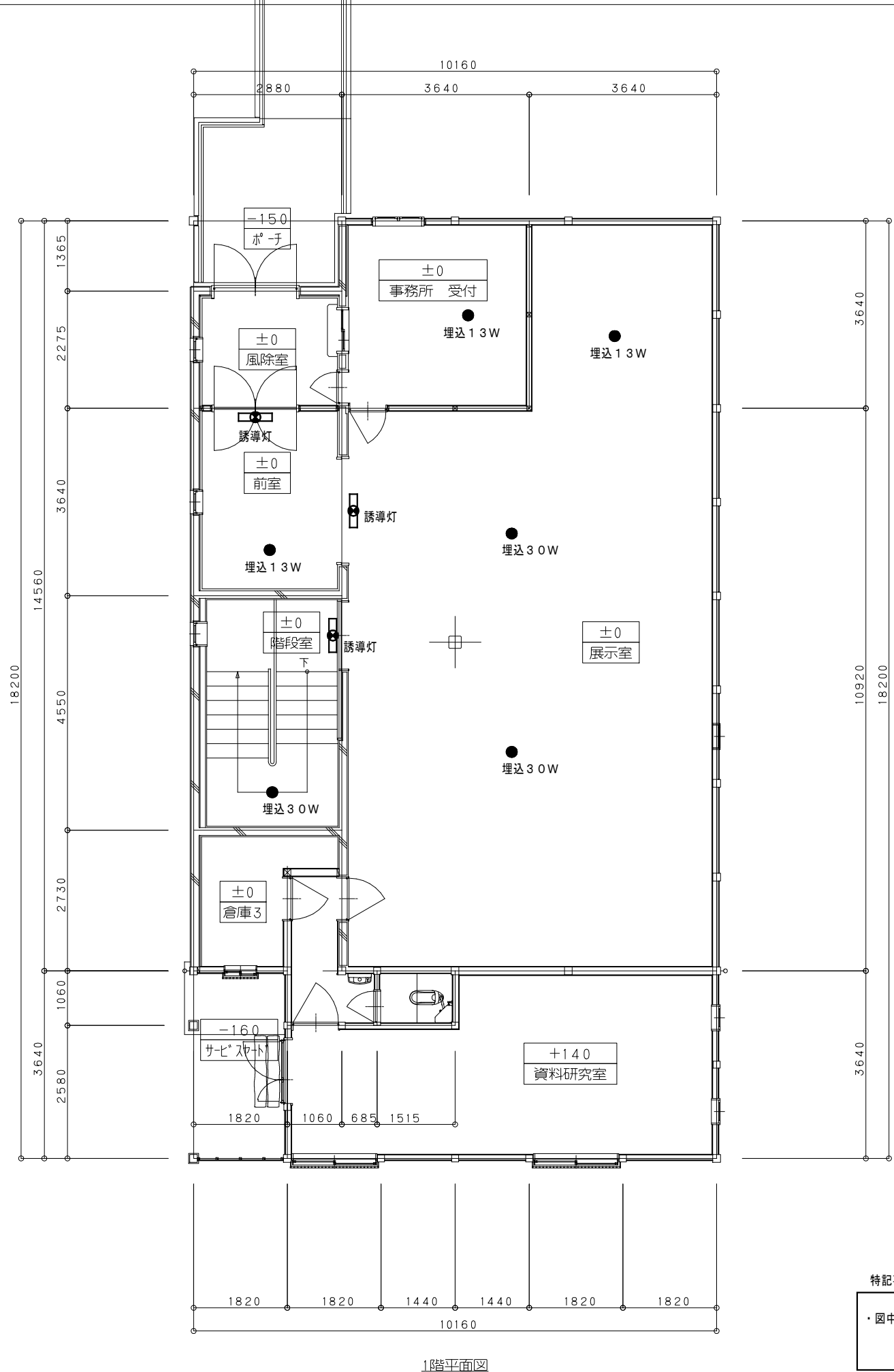
特記無き配管配線は下記による	
---	VVF1.6-2C

特記事項

・照明器具（当該安定器および安定器～照明器具間の配線含む）、およびライティングダクトは、撤去凡例『×』が無くとも全て撤去する。
・ライティングダクトの器具（参考撤去数量 地階・1階 計63台）およびLED電球は、打合せのうえ一部を引渡しとする。



地階平面図



1階平面図

特記事項

・図中の器具の撤去を行う。